

闘ふ陸の荒鷲
青木泰三著

396.8
A53
④



0057259000

0057259-000

396.8-A53ウ

闘ふ陸の荒鷲

青木泰三・著

集英社

昭和16

AJF

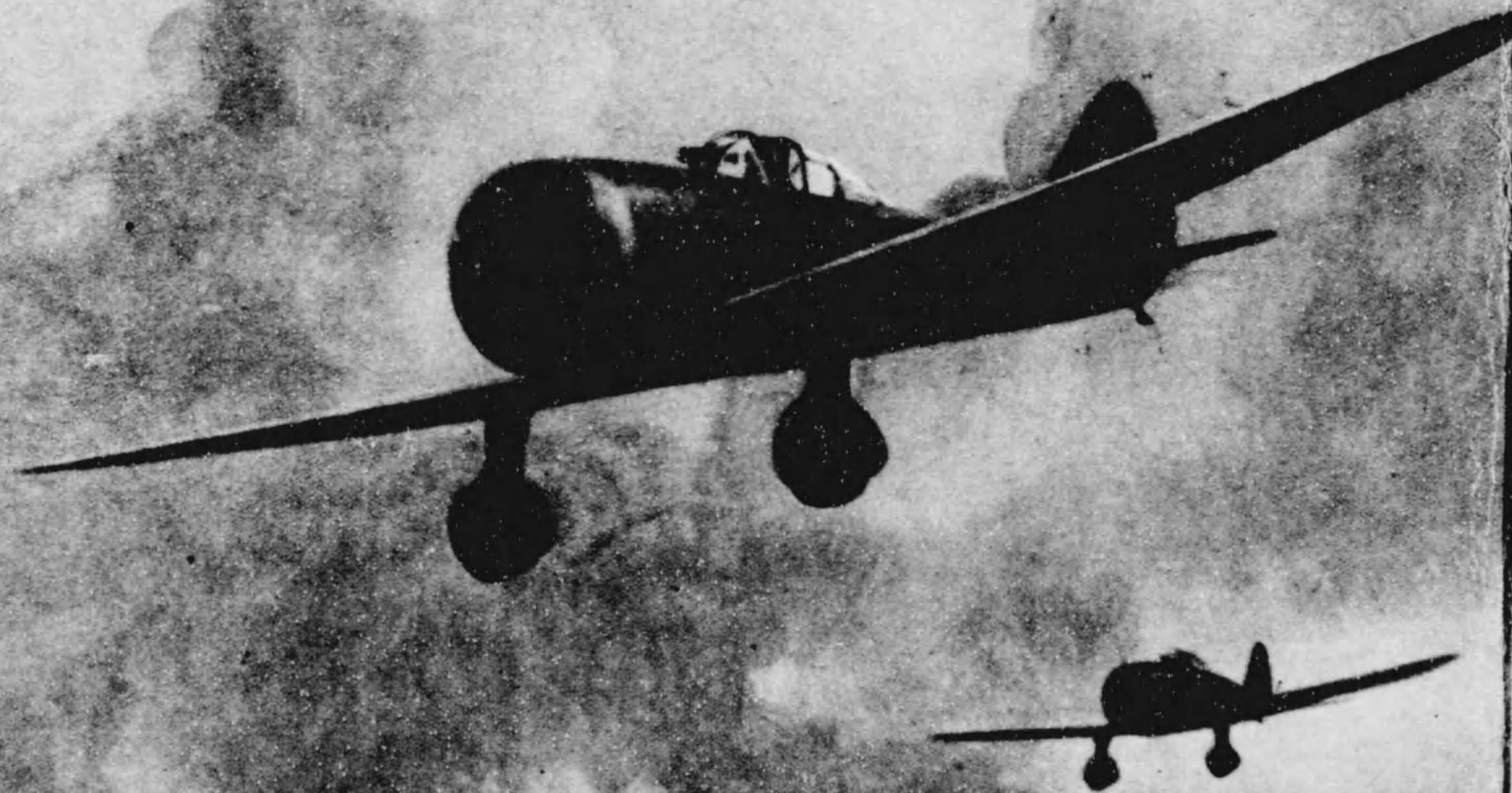
1

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月2日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

鷲の陸と闘

著 青木泰三

納本



91
15

396.8
A53

(7)

青木泰三著
陸軍航空本部指導編集



闘ふ陸の荒鷲

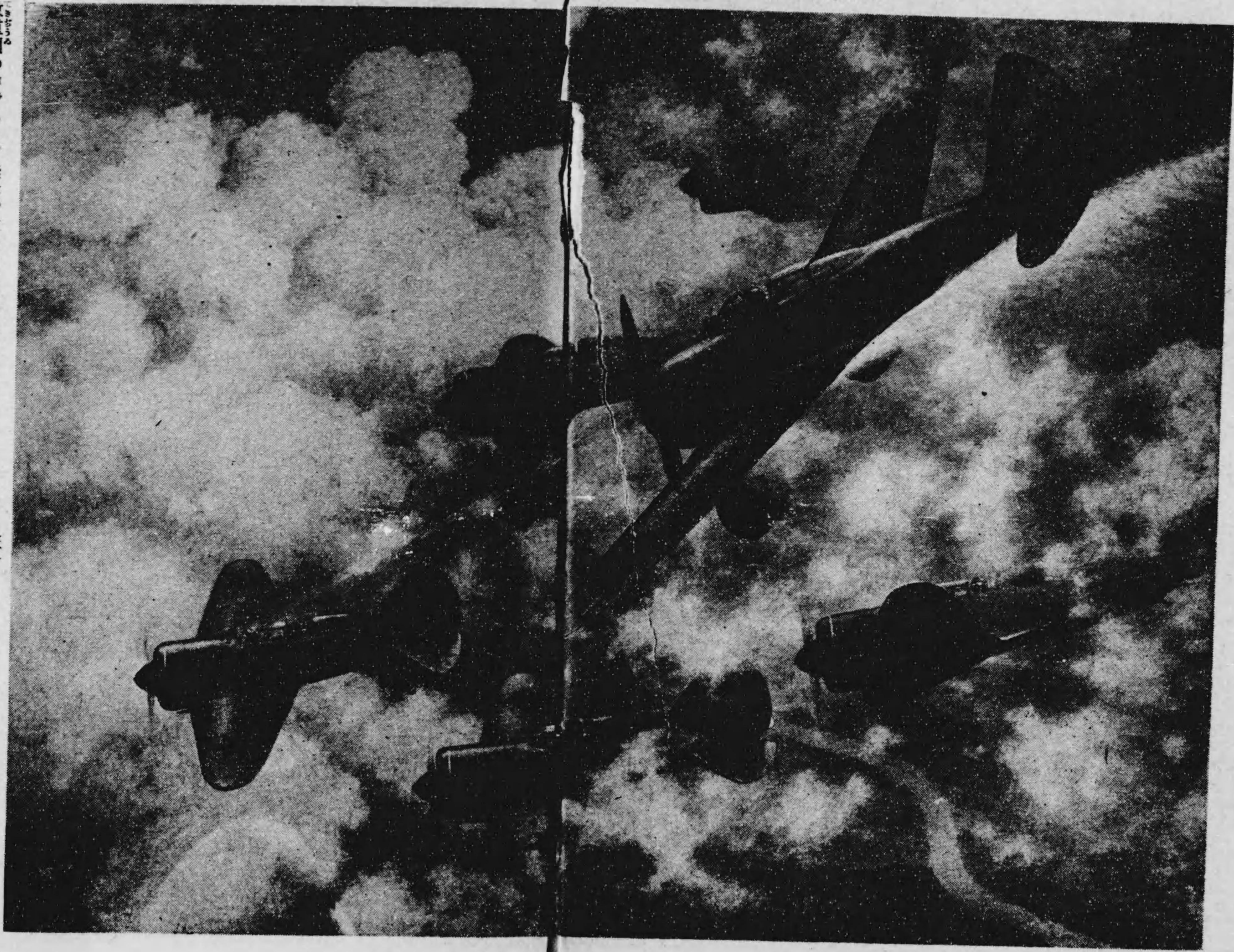
集英社



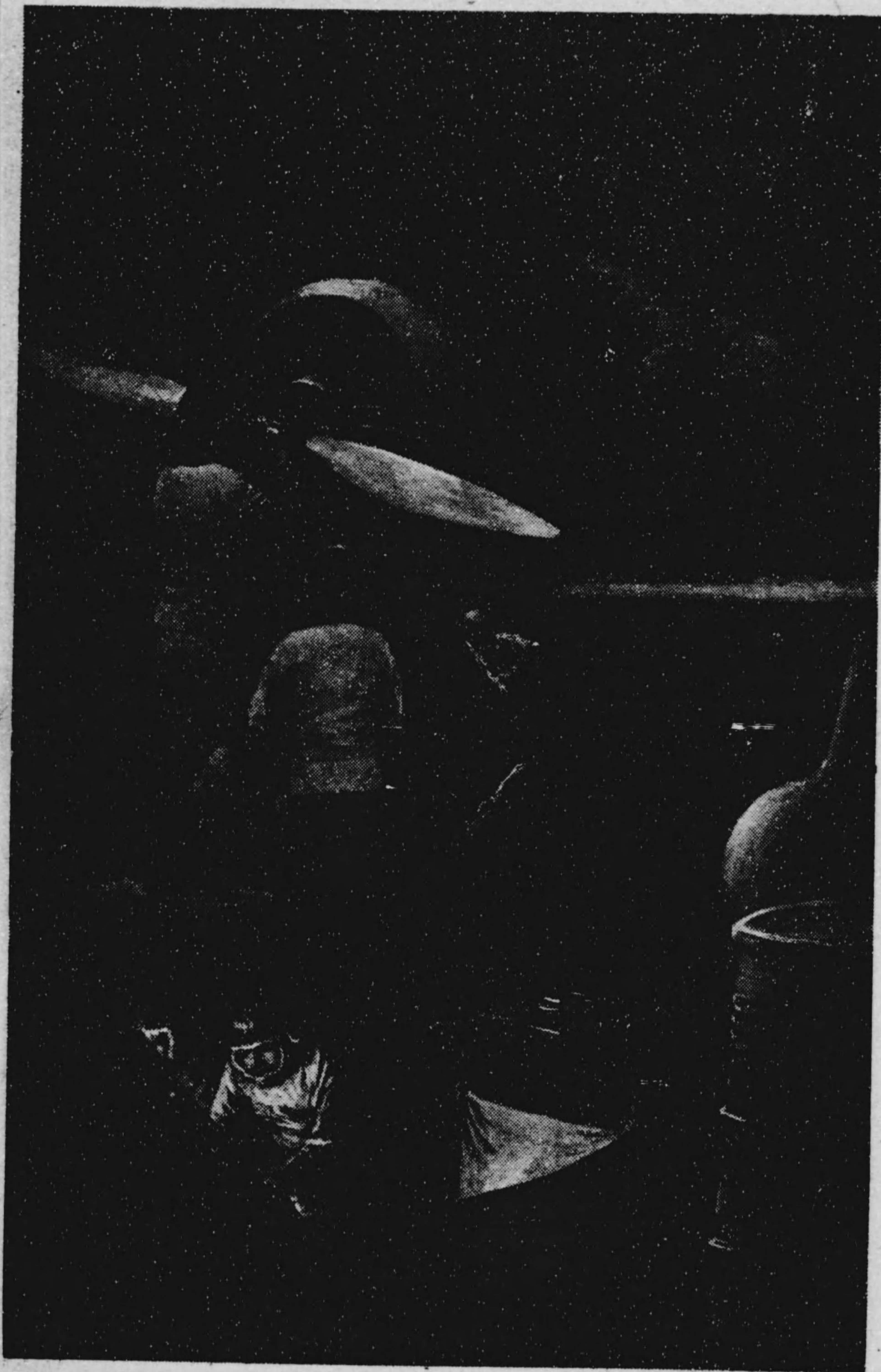
ノ墜撃を機長隊編敵りよ機愛く吐を煙黒、し止停はラペロプ

敵重圍の中である。無念や敵の一弾は機關部に命中し、エンジン停止してしまつた。續いて滑油、ガソリンは尾をひいてゐる。空中滑走で巧みに密雲を降下すると、敵五機の編隊頭上に来た。機先を制して、敵編隊長機に集中弾を浴せると、何んとアツといふ間もなく火達磨となつて墜落して行つた。指揮官を失つた四機は狼狽四散して遁走した。あゝ豪勇、不屈の陸驚長谷川少尉！

(本文六十一頁参照)



整備班の苦闘



星もみえない夜空である。明日の戦闘に備へるために整備班の全員は、時間のたつのを忘れて、この銃、このネチに細心の注意を怠らない。愛國號整備に一身を打込んでゐる。「明日も勝つて来いよ。」の一念が機體にかけられてゐるのである。華かな戦闘、輝かしい武勳の影に、この整備班の苦心を忘れてはすまぬ。

序

今次事變の勃發と共に、奔流ほんりゅうの如く捲き起つた國民の愛國赤誠運動が美しい實を結び、我が陸軍へ獻納の、多數の愛國號飛行機となつて現はれた。

この國民の赤誠に應へんものと、前線將兵は愛國號を驅つて、勇猛果敢ゆうまうくわかん、俊敏奮戰しゆんみんふんせん、克よくく世界空中戦史を飾る勳功を樹たててくれた。

集英社がこゝに國民赤誠の愛國飛行機の奮戦録を蒐録しゆろくし、「闘ふ陸の荒鷲」の本書を刊行し以て「愛國號は強し」「國民の翼闘ふ愛國號」たる事實を獻納者及び全國民に紹介せられたる事は、時局柄極めて有意義なるものと信ずるものであつて、敢て江湖かうこに推獎すゐしょうして已まない所である。

陸軍航空本部 陸軍少佐 西原 勝

序

國民が我が陸軍に寄せる愛國號飛行機の今次事變に於ける力戰、奮闘の模様は、その都度發表されて、當局は國民の赤誠に應へてゐた。

茲に我が集英社が之等を蒐録刊行するにあたり、陸軍航空本部は大いに賛同、推奨して進んで資料を提供し、指導編纂にあたつてくれた。

事變中の爲め伏字もあり、更に追補を要する點もあると思はるゝと共に、こゝに挿入の分は一部分である事を諒とされ度、その他の分は他日の機會に譲る事にした。

終りに本書刊行に特別御盡力下さつた陸軍航空本部並に關係者、東京朝日に感謝してやまない。

著 者 識

出版に際して

興亞建設永遠の大業は今將に偉大なる皇軍戰捷のうち樹てられんとし、反共和平の旗の下、新中央政府と相呼應の力強き歩は、歩一步と進んでゐる時支那大陸の奥地に至るまで翻へる日章旗を仰ぎみる、あゝ誰れか感激の涙なくして聖戰五年の戦果を回顧し得よう。

その間、我が陸軍航空部隊は全支に鵬翼を張り、空爆に、空戦に赫々たる戦功を収め制空權を確保し、又ソ満國境の殊勳こそは、世界の眼を奪ふ壯絶無比なものであり、世界空中戦史を飾る活躍ぶりであつた。

皇國の爲め身を賭して戦ふは武人の常とはいへ今次支那事變に於ける陸の猛鷲の勇壯果敢な奮闘に國民は幾度か感謝と、歡喜を以て迎へたが、中にも一億同胞老いも若きもその赤誠をもつて生れた陸軍獻納愛國號飛行機が、その赤心を機翼にのせて聖戰に参加し縦横無盡の働きに幾多の殊勳を樹てたる事は重なる歡喜と誇りに堪へない所である。

思へば全國津々浦々より集る赤心、或は遠く海外同胞が祖國の爲めにと寄する赤誠を以て生れた、陸軍愛國號飛行機が前線の原隊に配屬されるや、陸の猛鷲は「この愛國號こそ全國民の魂と血が通つ

てゐるのだ」と一億同胞の魂と共に闘ひ、敵の防空砲火をくぐり、機關銃彈の嵐を衝いて敵機を撃墜し、或は敵重要據點を粉碎する等輝かしい武勳の數々を樹て、新東亞建設の歩を進めて來たのである。吾れ等は今こゝに、溢るゝ國民の赤誠の結晶である、吾れ等の陸軍獻納「愛國號飛行機」が如何なる働きをしたかについて報告出来る事を欣幸とするものである。

獻納者は「我れ等の獻納機は如何に働いてゐるか」を知りたい所であらうし、陸の猛鷲は「國民の魂こもる愛國號はかく闘へり」と報告したい所であらう。

幸ひこゝに陸軍航空本部指導編纂のもとに「陸軍獻納飛行機、愛國號は闘ふ」の出版をみる事の出來るのは欣幸に堪へない所である。たゞをしむらくはこゝに集録せるものは、赤誠こもる國民の獻納したる多數の愛國號より一部を報告するに過ぎない所である。然しながら、これによつても國民の魂こもる「愛國號は強し」と知る事が出来るのである。

今回の出版に陸軍航空本部、陸軍省恤兵部、陸軍省情報部の御聲援を深謝すると共に、今後續いて第二輯を發行し以て「愛國號の奮戦、陸の猛鷲の健在」を報告し得る事の出来るのを欣ぶものである。殊に昨年紀元二千六百年の佳き年に航空卅年にあたり、又航空記念日の設定をみる等航空に關する喜びの重なる年に續いて又本書の出版をみた事は意義を増すものであると思惟するものである。

支那事變・陸軍獻納愛國號飛行機

闘ふ陸の荒鷲 目次

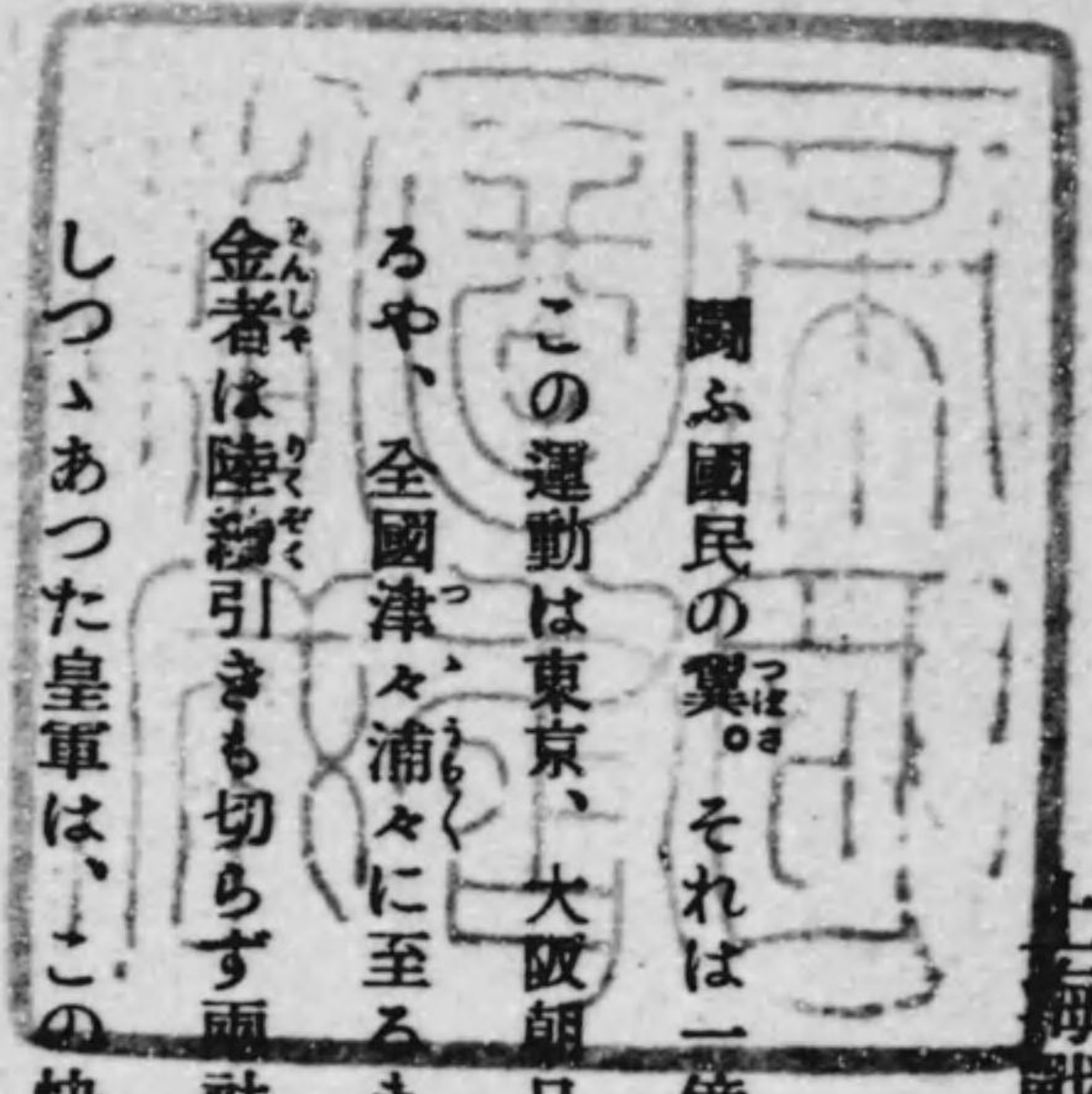
赤誠の國民が送る全日本號はかく闘へり……………	一
全日本號で活躍の仁禮中尉惜しくも散華……………	六
自爆の決意を醸して敵中に不時着修理……………	一〇
武勳に輝く全日本號の荒鷲が語る報告書……………	二四
鶏卵を集めて獻納の全國養鶏號奮戦の跡……………	二六
敵機四十九機撃墜の愛國第三百廿三號……………	三三

猛鷲部隊の下で勳功燦然たる第三百六號……………三
 歴戦撃墜の殊勳甲は愛國第三百七號……………三
 滿ソ國境の敵機撃墜王愛國第三百十八號……………四
 傷けど銃後の魂護る第二百十二號還る……………三
 敵殲滅戦に初陣以來大手柄の女學生號……………三
 撃墜の名人「命あり少尉」と共に活躍の第二百廿五號……………六
 角力さん獻納機力強く初陣から勝放し……………三
 陸の荒鷲佐々木准尉と共に奮戦の辰馬號……………三
 陸軍獻納愛國號飛行機、獻納者一覽表……………三

鈴木御水畫

赤誠の國民が送る全日本號はかく闘へり

上海戦に初陣以來偉勳赫々の「闘ふ國民の翼」



闘ふ國民の翼。それは一億國民の赤誠を集めて獻納された「愛國全日本號」の謂である。

この運動は東京、大阪朝日新聞社によつて提唱され、昭和十二年七月廿日兩紙に一度「軍用機獻納運動」が發表されるや、全國津々浦々に至るまで一齊に起つて呼應し、遠くは海外同胞の胸にさへ電撃の如く打ち響いて、怒濤の如き獻金は陸軍引きも切らず兩社に押しかけ一周年には早くも六百六十萬圓の巨額を突破した。時あたかも武漢攻略をめざしつゝあつた皇軍は、この快報に戦意愈々熾烈、三軍の緊密策戦は愈々高調したのである。かくて二周年、三周年と長期獻金に及びながら今尙連綿として國民の至誠は續き昭和十五年九月現在では實に七百十五萬圓を突破したのだ。その巨額、その赤誠には當局はたゞ感激の次第である。

この間長くも當時陸軍航空本部長におはしませし東久瀧宮殿下には、相次ぐ國民の熱誠にひとしほ御感激深き御模様
に拜され、親しく同社重役を御殿に召して有難きお言葉を賜はつたのである。同社では實行委員として、

陸軍側 航空本部高橋大佐。同第二部有森少佐。

これに海軍側の諸權を網羅し、これに委員が加はつて軍用機獻納實行委員會が組織された。

かくて第一次獻金をもつて我が陸軍には最新鋭戦闘機十機、最新鋭偵察機十機、最新爆撃機十機の合計三十機を獻納し、委員會を開催して之等を「全日本號」と命名する事に決定したのである。

續いて第二次獻金により十五機、第三次五機合計五十機、陸、海軍合せて實に百機獻納といふ劃期的記録を樹立し獻金者數實に十萬餘と註されたのである。

かくの如く全國民赤誠の結晶である「愛國號全日本號」の陸の猛鷲は昭和十二年九月上旬早くもその勇姿を戦線に出動した。



華々しい初陣のなかにも「愛國第七十一號全日本號」は九月七日午後一時、



疾風の如くに上海周圍部の敵陣上空に勇姿を現はし、僚機の代表として敵地偵察の重要任務を見事に果たした。さすがは、「國民の闘ふ翼」である。敵機關銃彈の熾烈な雨の中をくゞつて、低空を縦横に

翔けめぐつて敵陣の状況を審さにし、敵心膽を完膚なきまで寒からしめたのである。

「國民の翼」は上海戦線の初陣で数々の殊勳を樹て轉じて北支にも颯爽たる勇姿を現はした。

これを迎へた先着の荒鷲達の感激振りは如何ばかりであつたか。實に生みの親の銃後國民の想像も及ばない程の大いなるものであつた。

配屬された青木部隊大室猛大尉は、

「確か昭和十二年の十月十二日でした。新しい飛行機をやるから受取りに來いといふので、私が命令をうけて、奉天へ行つて空輸して來たのです。飛行機を見てはじめてそれが「全日本號」とわかり、思はず萬歳と叫びました。この一番機は愛國百七十號でした。」

と語り、青木部隊長も、

「うむ、この立派な飛行機こそ、全飛行將校が待望的である全日本號か。これをあづかる上は、國民の待望に應へるため思ふ存分働くのだぞ！」と嚴然と言ひ切つた。

誰も彼も赤い夕陽を浴びながら愛國號の周圍に集つて涙ぐましい感激に咽び、五體がビリビリと緊張したものと、當時を偲ぶ度に今なほ感激の情禁じ得ない有様なのである。……

さて——その頃は敵の爆撃機が、連日の如くわが軍の上空に姿を現すので、青木部隊長は、この最初に着いた「全日本號」を自ら操縦して、大室大尉等とともに名譽榮光ある機上の人となつて、

「どうしても敵空軍根據地を叩き潰さねばならん」

と連日、敵地の空を翔けまはつた。その揚句、つひに敵の基地を太原に發見、十四、五機ずらりと並んでゐるところへ彈丸の如き急降下爆撃を加へて一気に潰滅してしまつた。

爾來國民の熱誠に應へて、西に東に、廣い北支の全戦線一ぱいに活躍をつゞけ、全日本號を配屬された青木部隊は、いつも武勳赫々銃後國民の祖國愛を象徴して「愛國部隊」とさへ呼ばれるに至つた。同隊の至寶、古林大尉、大室大尉長友伍長は、青木部隊長と共に連日「全日本號」の操縦桿を握つて、或ひは石家莊攻略に、或ひは太原陥落に、又は濟南攻撃に、かずかずの偉勳をたて得たので、これらの諸勇士は國民に對し、全日本號讚歎の挨拶をつぎの如く述べた。

青木部隊長は「皆さんの熱誠によつて以來一日の休みもなく、祖國のため活躍してゐます。全日本號は快速無比であつて、洛陽、鄭州、或は周家口の敵空軍根據地を片つ端から叩きつぶしてゐます。たゞ一機で敵の戦闘機十數機に出會したこともあります、全日本號の精銳ぶりは、みごとに群る敵中を突破し振り切つて、悠々目的を遂行して歸りました。

古林大尉は「これこそ全國の皆さんが熱誠こめて作られた愛國機だ。全國民の精神が宿つてゐるのだ、といつても感慨にうたれて機上で緊張してしまふ。全日本號なればこそ、北支もせましと翔けまはることができなのです。敵機がいろいろあるまいが、全日本號の精銳は平氣で任務を遂行するのです。友軍のどこの根據地に着陸しても、全日本號だと地上部隊の人まで駆けよつて嬉しさうに眺め、そして皆が可愛がつてくれます。」

大室大尉は「この頃は敵機も餘りついて來なくなりました。實際よりつけないのです。西安でも、洛陽でも、地上に

戦闘機があるのに、飛び上らうとしません。全く無敵の精鋭ぶりを發揮してゐます。その雄姿こそは、今北支の戦野に航空日本のシムボルとして輝いてゐます。」

長友伍長は「一つの部分品にも、皆さんの熱誠がこもつてゐるのだ、と思ふと腕に異状の緊張を覚えます。大空を翔けるとき、響く爽快な爆音は、皆さんのバンザイの聲にさへきこえて來ます。」

これは昭和十三年一月に現地〇〇基地にあつた特派記者から傳へられたものである。

これを読んだ國民は等しく「よくやつて呉れた。これでこそ、僕等が、私達が、僅かながらも貯蓄したお小遣を、節約したお金を、或は時間外に働き、或は特別手當を、或ひは、或ひは、とあらゆる方法により、銃後國民の愛國赤誠の一致團結の「志」を、無敵我が陸軍空軍に捧げた甲斐があつたのだ」と感激、感謝で胸を一杯にしたのであつた。——
實に「愛國全日本號」の殊勳こそ陣中の花だ。以下、順次にそのいさほしを物語つて行かう。

全日本號で活躍の仁禮中尉惜しくも散華

學生鳥人時代より馴染の空の俊敏武人

愛國赤誠に燃ゆる國民の軍用機献納運動によつて、生れた全日本號は所謂國家總力戰の感を深めるものであるだけに「全日本號」の力強さは、その希望と信頼を機翼に乗せて前線に奮闘する陸の猛鷲の氣魄とを相伴つて「愛國號は實に強し」と謳はれるに至つた。

かくてその征くところ重慶、成都、蘭州と支那奥地爆撃隊と呼應して、我が全日本號部隊は連日活躍を續けてきた。前線〇〇基地に於て精悍無比とその勇名を轟かせてゐる竹下部隊にも、吾れ等が國民の翼である愛國號「全日本號」は、配屬され、全荒鷲は國民の信頼にそひ、又自隊の面目にかけても、その奮戦を誓ひ合つた。或る時は敵密集部隊を捕へて機關銃の掃射を浴せ、又或る時は敵偵察に遠くまで飛び、時には敵陣地爆撃を敢行して、抗日の迷夢に踊る支那軍の眞只中に國民の怒りをたゞき込んで木葉微塵としたのである。

かく北支の、中支の、南支の各部隊に配屬された「全日本號」は各隊負けず劣らずの奮闘を行ひ「愛國號全日本號はかく闘へり」の殊勳報告が出来る度に欣び合ふのである。

國民はこれを知り、我が魂は全日本號の機翼に乗つて「我も戦へり」の感を等しく持ち得るのであらう。

竹下部隊仁禮景康中尉は「全日本號」を操縦して第一線に縦横無盡の活躍をした陸の猛鷲中の猛鷲である。

昭和十五年八月廿九日隴海線方面の敵西北ルート據點に對する重要任務を帯びて「全日本號」に搭乗して活躍中、敵弾を受け壯烈な戦死を遂げた旨發表された。

仁禮中尉は學生鳥人として、かつては北支の空で活躍した事があり、學生時代の念願がかなつて全日本號部隊付とな

つて再び支那大陸に出動し活躍中であつた。その烈々たる闘志と、不屈の皇軍魂、併せて俊敏そのものの性格は空の武人として真に典型的であつたのでその前途はつとに囑望されつゝあつたのに突として大陸の華と散つた。實に痛惜に堪へない所である。

その身は空の武人として、その最期を飾る壯烈な戦死の時に至るまで「全日本號」と共に起き、共に寝て空爆に、攻撃、偵察に縦横無盡の活躍を續けて、「全日本號と共に陸鷲にその人



あり」と謳はれたのも今は語り草となつた。

その祖父は海軍大臣、樞密顧問官等を歴任した仁禮景範海軍中將である。(東京麴町區霞ヶ關、海軍省角に銅像あり)

東京市澁谷區千駄ヶ谷三ノ四九六子爵仁禮景嘉子の令弟で、母堂嘉枝さんを中心に軍人三兄弟で知られてゐる。

當主景嘉子氏は今次事變勃發後間もなく北滿に出征して轉戦幾多の殊勳を樹て、歸還、昭和十五年八月七日除隊したばかりであり、次兄景正氏は今尙大陸で活躍中である。

護國のため散華した景康中尉は、曉星中學から早稻田第二高等學院を経て、昭和十三年同大學法學部に入學したが、この頃から大空への希望に燃え日本學生航空聯盟に加入して活躍をし、東京朝日新聞主催の學生航空選手權大會にも出場してその美技に觀衆をうならせたものだった。昭和十二年十二月に飛行士の免狀を獲得し、翌年の十二月には滑空士の免狀をも授與され、愈々大空への精進は續けられて行つたのだつた。

法學部在學中の昭和十四年五月に志願して、陸軍操縦生候補生となつて入隊、愈々本格的に空の武人としての鍛鍊を初めたのであつた。日頃の精勵と、努力と、不屈の精神がその技倆を急激に向上させて、皇軍の花形、陸の猛鷲として昭和十五年五月に除隊と共に應召、勇躍出征し〇〇にあつて我が陸鷲の一員として全國民の赤誠愛國號と共に活躍を續けて來たのであつた。が、その人すでに無し。悲しいかな壯烈なるかな。

自爆の決意を翻して敵中に不時着修理

遂に火を放つて生還豪膽な全日本號の勇士

重慶、成都、蘭州と我が陸鷲奥地爆撃隊は重疊たる山嶽地帯を越え、果しなき岳を越え、名も判らぬ河に沿つて勇敢に進撃する。が目標上空に達すると待機してゐた敵防空砲火は一齊に火蓋をきり物凄じいものがある。その砲火をも物とせず爆撃隊は精確な照準の下に敵軍事施設、敵陣重要地帯を木ッ葉微塵に粉碎し常に赫々たる戦果を収めて悠々歸還するのである。この爆撃隊に呼應して我が全日本號部隊も連日活躍を續けてゐるのであるが、こゝに敵弾を受け自爆を決意したが、銃後國民の赤誠と、陸鷲として任務報告の重大さに翻然と意を翻へして、豪膽にも敵地に不時着して重要書類を焼き、襲ひ来る敵と應戦したが弾薬もつきたので今はこれ迄と愛機に火を放つて、彈雨の中を潜り抜け無事〇〇前線基地に生還して、その使命を果し待ちわびた戦友に歡喜を以て迎へられた勇壯無類の武勇傳が前線から傳へられて來た。――

昭和十五年九月二日のことである。

前線〇〇基地に於てその勇名を轟かせてゐた竹下部隊の落合重温中尉（東京府出身）は部下の大石悦治曹長（愛知縣出身）と共に、正午頃、敵軍に残された唯一の西北ルート隨海沿線の偵察、攻撃の重要任務を帯びて戦友に送られて勇躍出發した。

この方面は輸送不圓滑の爲めに軍需品が山積してゐる。

落合中尉は〇〇基地から雲行飛行を續けて同方面を隈なく偵察してゐるうち猛烈な敵の集中砲火を浴びて、不幸にも敵弾を心臓部エンジンに受けた。

「しまつた！」

然し沈着果敢な落合中尉は少しも騒がず苦闘難航を續けて行つたが、やがて生還の望みは全く絶えてしまつた。

「我れ等二人は今より自爆せんとす。友よさよなら」

と自爆の決意をして悲壯なる無電を發した。これをキャッチした〇〇基地では直ちに

「使命は重いぞ、最後まで頑張れ。」

の無電を發した。

機上これを受けた落合中尉は、

「さうだ、大石曹長頑張れるだけやらう。」

と翻意したのでつた。

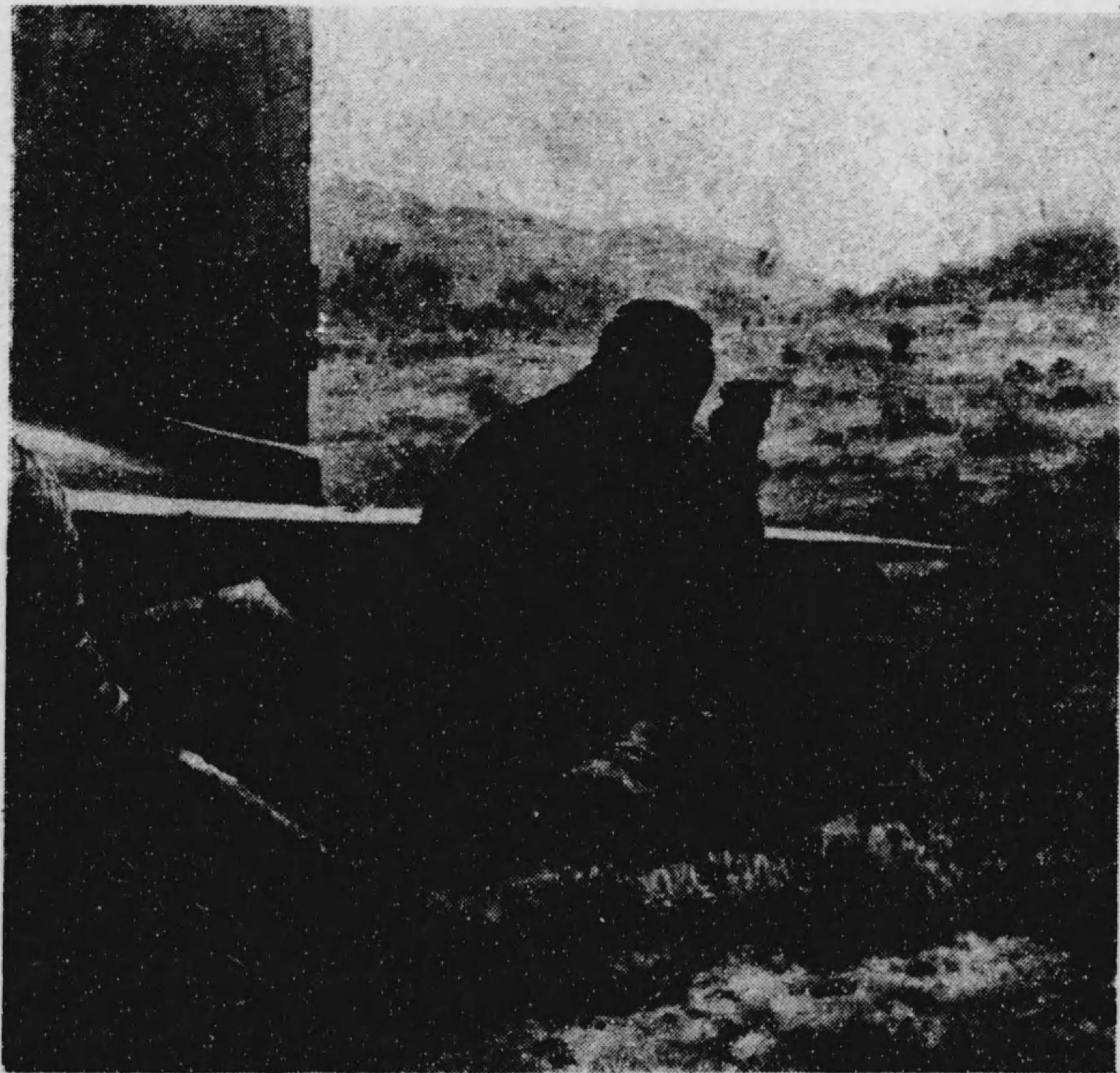
すると腦裏に浮いて来るのは、

陛下の飛行機を壊すな、赤誠國民の愛國號である、この一事だった。

「うむ、あくまでやつて見せるぞ。」

と再び操縦桿をしつかと握つたが、最早その時は愛國號全日本號は全く飛ぶ力を失つてゐたのである。

今はこれ迄と大膽にも黄河河畔の蒲州西方廿籽の敵陣地に不時着した。そして直ちに大石曹長が機體の修理に着手し、落合中尉はピストル兩手に警戒の任に當つてゐたが、不運にも我が機の不時着を知つた敵は多勢をもつて襲撃して來た。敵が放つ一發、二發、三發の銃聲は次第に増して敵兵の姿は最早百米の近くまで接近して來た。然し愛機故障は中



々に修理出来ない。「萬事休す自決して愛機諸共散華するか」と思つたが〇〇基地からの無電がはつきり思ひ出された。

「最後まで頑張れ、使命は重いぞ」

の命令である。と言つて方法は皆無だ。愛機をこのまゝ敵の手に渡す事など勿論出来ない。遂に涙をのんでガソリタンクに火を轉じた。

たちまち濛々と燃えあがる愛國號。

「愛國號よ、全日本號よ、けふ迄の働きにお禮を言ふよ」思はず言葉が漏れると、目頭から熱い涙が流れ落ちるのであった。



この時の兩勇士の胸は如何だったであらう。

かくて落合中尉、大石曹長は愛機が完全に焼失するのを見届けてサッと附近の草叢に飛び込ん匍伏した。敵の追撃をさけるためだ。彷徨すること五時間後、日没頃やうやく味方の陣地に辿りついて重大任務を果たしたのであった。

一方〇〇基地では落合機からの無電機上連絡がバツタリ途絶えてしまつたので、その安否を氣づかつて僚機を捜査に

出したのだが、やがて生還して來、しかも重大任務を果たしたといふので戦友達は兩勇士を胸あげして「お目出度う」を連發するのであつた。

武勳に輝く全日本號の荒鷲が語る報告書

銃後の溢る、赤誠に應へる勇士の勇壯果敢

つぎに荒鷲部隊大室孟大尉を圍んで、荒鷲勇士達の座談會が催され、全日本號の興味ある數々の思ひ出話に花が咲いた。以下その記事を掲出しよう。

當日参加の勇士は全日本號初代部長の下志津飛行學校教官青木武夫大尉、熊谷飛行學校教官古林忠一大尉、航空士官學校教官大室猛大尉、濱松飛行學校杉本明大尉、熊谷飛行學校生源寺保巳中尉等何れも親しく全日本號を手鹽にかけた荒武者ばかりである。従つてこの思ひ出こそ國民の赤誠によつて生れた「全日本號」の貴い記録談である。

(昭和十四年七月廿一日於東京朝日)

青木大尉 戦地で初めて全日本號の第一番機にまみえた時の感激、あの嬉しさは今でも忘れられない。いや一生忘れ

られないだらう。

大室大尉 それは「愛國百七十號」ですよ。確か昭和十二年十月十二日でした。新らしい飛行機をやるから取りに來いといふのです。私が命令を受けて〇〇へ行つて空輸して來たのです。飛行機を見て始めてそれが全日本號と判り思はず快哉を叫びましたよ。

古林大尉 僕が「愛國百七十號」を初めて見たのは太原攻撃の頃だつたと思ふが、「全日本號」一番機の最初の殊勳は？

大室大尉 青木大尉殿、例の〇〇飛行場の急襲でせう。

青木大尉 さうだ、太原攻略作戦の白熱化してゐる頃だつた。あの時は大室も一諸に毎日朝から晩まで出勤が續いてえらく張り切つてゐた。敵の爆撃機がやたらに出没してうるさい、どうしても敵空軍の根據地を叩けといふんで、文字通り東奔西走の擧句、運良く僕が百七十號で〇〇を發見したんだ。十四、五機許り居た奴を一氣に覆滅したんでスーッとした。

大室大尉 全くうまく行つて〇〇基地でも全日本號の素晴らしい殊勳だと飛行機を人間のやうに賞められた事を思ひ出しますね。

古林大尉 戦ひの第一線に在つて常に全國民を想ひ出させてくれる全日本號を操縦出來たのは我々の幸せだつた。第一氣分からして違ふよ。

杉本大尉 誰だつたか、全日本號のエンジンはパンザイイといふ國民の聲のやうな氣がするつていつてました。

大室大尉 實際お世辭でも誇張でもなく立派な飛行機ですね。敵の上を飛びながら翼の紙を眺めて、これも銃後の誰かが十錢二十錢と献金した貴い金で作られたものだと思つてホロリとさせられた事が度々だつた。

古林大尉 いくら軍人でも理窟許りぢや行かん。我々の背後に國民の後押しがあると思ふと、恐しいも辛いも無くなるのだ、全日本號に乗つてゐると確かに理窟を超越した力が出て来る。

青木大尉 全日本號を戦地へ送つてゐる國民の方でも意氣込みが違ふ。絶えず手紙に慰問袋を送つて激勵して下さい。中には「全日本號をしつかりたのみますよ」なんて率直明快な手紙も来るね。

大室大尉 手紙を貰ふのは何より有難いが、戦地の事で一々お禮を出せないのでね、するとこちらの記事の出てる新聞を送つて寄越して「この新聞は必要だから讀んだら返送して下さい」等いふ新戦術が出て来る、これには參つた。

青木大尉 所で今迄の全日本號の延飛行距離はどの位になつたらう。



生源寺中尉 もう二百萬キロ位になつてゐるでせう。地球の周回距離は四萬三千キロだから地球を約五十回近く廻つた勘定だ。

古林大尉 僕だけでも十五萬キロにはなる、大室大尉が一番だらう。

大室大尉 最初からだから、大體三十五萬キロ位かな。

古林大尉 それだけ飛んでも未だ一度も事故を起した事がない、これは自慢して良いよ、飛行機もしつかりしてゐるのだが、自分はこの殊勳の大半を整備班長の俵六郎少尉に歸すべきものと思つてゐる。俵は未だ戦地に居て活躍してゐる

るが、百七十號以來全日本號の整備を一手に引受けてやつてゐる。

生源寺中尉 少しエンヂンの工合でも悪いと、たつた一人眞暗な飛行場に殘つて夜を徹してでも働いてゐる。

大室大尉 彼は一つの信念を持つてゐる、全日本號は唯の機械ぢやない、國民の愛國心が沁み込んだ生きた機械だ、だからこちらが魂を打ち込んで整備に當れば、斷じて事故はない、とね。豫定より飛行機の歸りが遅れて、みんな心配しながら待つてゐる時などでも、彼だけは絶體に自信を持つて、默然としてゐる。

生源寺中尉 それだけに歸つて來ると人一倍喜んでますね「どうだ、機嫌は良かったかな」エンヂンを撫でさすりながら……

杉本大尉 あゝなると、まるで自分の子供のやうに可愛くなるらしい。

鶏卵を集めて献納の全國養鶏號奮戦の跡

さながら闘鶏の如く撃墜實に十三機に及ぶ

愛國第三百廿八號全國養鶏號〇〇式戦闘機

愛國第三百廿八號全國養鶏號は昭和十四年七月十二日我が陸軍の精銳隊岩橋隊に配屬された。

同機献納の裏には全國養鶏家の涙ぐましい汗と油の貴い努力の美談があり當局をいたく感激させたものである。

今次事變と共に猛然捲き起つた獻金、献納運動に全國養鶏家も機を飛ばして愛國號献納運動を起したのであつた。

かくて東京帝國大學農学部畜産教室内に養鶏報國聯盟の本部を置き理事長に前農林省畜産課長石崎芳吉氏をおき、常任理事岩住良治東大名譽教授他十七名の各方面代表者を選任、これに有馬農相、小平農林次官、岸畜産課長の三氏が顧問として加はつた。小學生が銀紙を集めて飛行機を造つた例にならつて、お手のもの、鶏卵を持ちよつて飛行機を献納しようと、全國各府縣に漏れなく支部を置き養鶏界未曾有の總動員的愛國運動を續けて來たのである。

かくして全國の養鶏組合、農會、産業組合その他の養鶏關係者が赤誠を協力し、中には小學生が二個、三個の卵を持ちよつて全國から實に五百萬個の卵が集りこれを處分して十五萬圓を得たので陸、海軍折半して献納し、こゝに全國養鶏家の赤誠たる「愛國第三百廿八號全國養鶏號」が華々しく誕生したのである。

かうして全國養鶏家の零細な一つ一つの赤誠は遂に實を結んで、こゝに愛國號一機を陸軍省に献納する事が出來、その名も「全國養鶏號」と命名され最前線部隊に配屬されたものである。

我が本部陸軍部隊は「闘鶏の如く強く勇しくあれ」と祈つたので現地猛鷲達もその期待に添ふやうにと配屬の翌日即ち七月十三日の戦闘に参加させたのを初陣として、引續き翼を休める暇もなく連戦させた。

この全國養鶏號の整備主任には技術優秀な鹿内軍曹がその任に當つてゐたし、全員は同隊に初めて配屬された愛國號であるからとて、愛兒の様な可愛がり方であつた。

同機が最初に手柄を樹てたのは七月廿三日である。この日僚機〇機と共に勇躍戰場に向かひ〇〇上空で二回に互つて敵戦闘機の大群と遭遇し、寡兵よく獅子奮迅、美事に敵イー十六型二機を撃墜した。

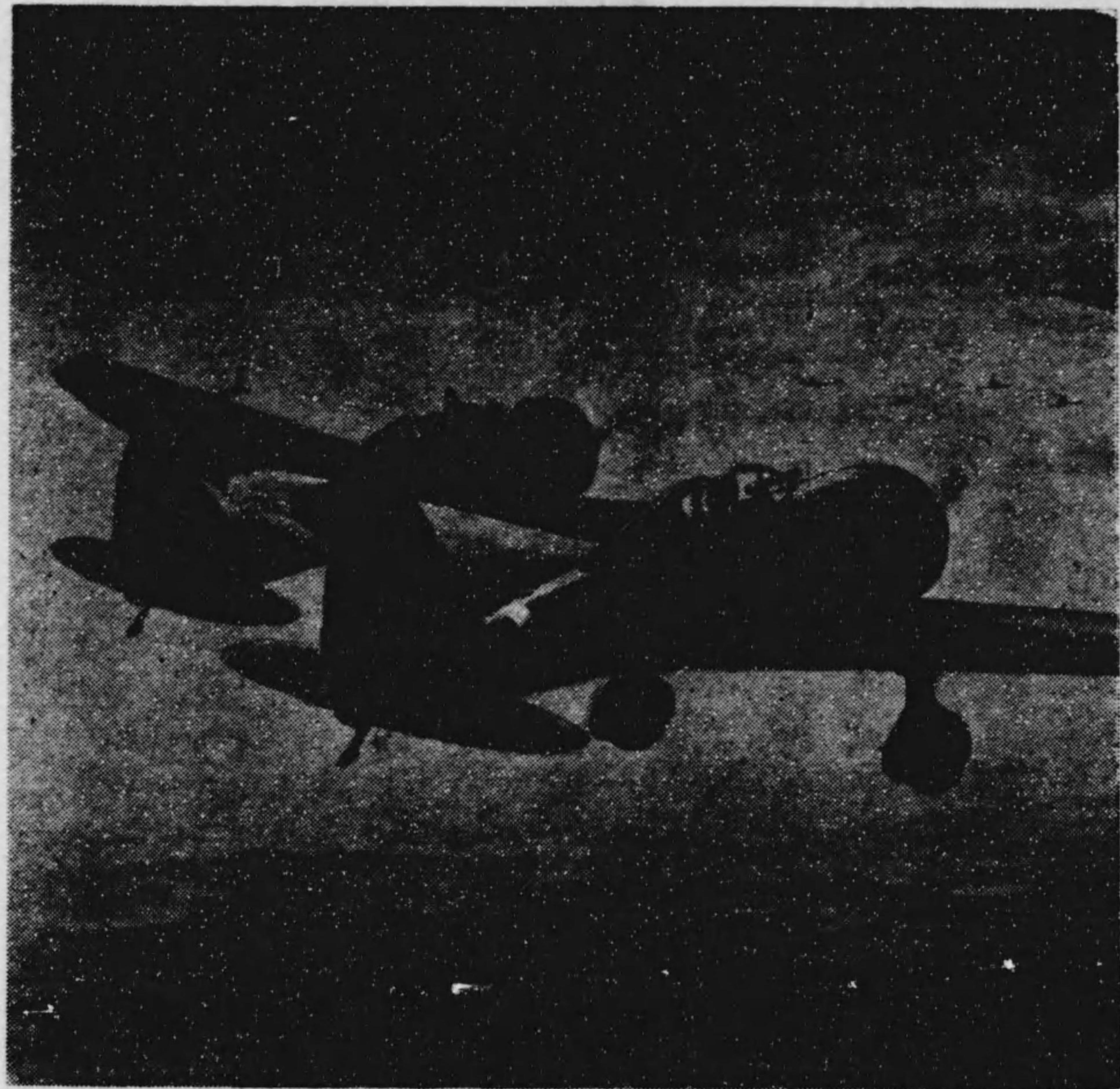
「闘鶏の如くあれ」と闘志満々たる全國養鶏家の精神がその機翼にこめられてゐた結果と共に、技術優秀、豪勇無双の陸驚の精神と、優秀なる機能の三味一體の奮闘の結合であると云へよう。

越えて七月廿五日午前僚機〇機と共に出動して〇〇上空で敵約卅機の大群と遭遇した。



「よき敵御座んなれ」と群がる敵機中に突入して忽ち一機を撃墜したが敵軍はこの時自軍の一機が黒煙をはいて墜落して行くのを見るや卑怯にも早くも列を亂して遁走してしまつた。

午後再び翼を休める暇もなく養鶏號は出動して敗戦續きの敵が仇討つつもりか小癢にも挑戦して來たのと遭遇して力戦よく七機を撃



墜した。かく赫々たる戦果を収め悠々〇〇前線基地まで歸還したが、自らも機首に敵弾二發を被つてゐた。然し幸ひなことには奮闘に差支へる程度のものでなく、我が子の様に可愛がつてゐた鹿内軍曹の手によつて直ちに修理が行はれて、その夜の中に明日の出陣には差支へない様に出来上つてしまつた。

越えて七月廿九日午前の戦闘に一機、午後一の戦闘ではイー十六型、イー十五型戦闘機二機を撃墜して赫々たる武勳の凱歌をあげながら歸還した。

思へば半月の戦闘でよく十三機の撃墜といふ大手柄をたてた事は、全國養鶏家の念ふ「闘鶏の如くあれ」の期待に反しないものであつて、これを聞く國民もまた養鶏家と否と

に拘らず等しく歡喜に堪へない所であらう。

敵機四十九機を撃墜の愛國第三百廿三號

歴戦奮闘の勇士谷口大尉武勳燦として輝く

愛國第三百廿三號河合號〇〇式戦闘機

茫々果しなき大草原の朝はけふも静寂のうちに明けて行つた。

一望千里の草原の彼方此方に放牧の牛馬や、羊の群が悠々と姿を現はし、何時の間にか地平線の彼方に消えて行く。残されて僅かに目に撮るは一點の雲が靜かに浮遊してゐる姿ばかり。何處かで早起きの雲雀の囀る聲が聞える。何んといふ靜かな朝であらう。凡そ戦争など全く知らぬやうな現世放れをした平安寂々たる牧場風景ではある。

だが、そこにはきのふの激戦を忘れたかの様に鵬翼を休めてゐる我が飛行隊の精銳機がズラリと雄々しい姿を列べてゐたのだ。

朝食をすませ出勤を待つ猛鷲が飛行服に身を固めて次々に集つて来る。連日の奮闘にも些かの疲れの色さへみせぬの

みか、「今日こそ！」と一層の張り切りやうではないか。

それもその筈である。きのふ我が隊に初めて「愛國號飛行機」が配属されたのだ。溢れるやうな赤誠をこめたこの愛國號が、けふから我が精銳隊の一員として活躍する事になつたのだ。けふはその初陣の日なのである。張り切らずにゐられようか。

愛國號には國民の魂がこもつてゐる。その魂を機翼にして奮闘するのだ。と陸の猛鷲の感激の意氣はいよいよ軒昂である。

七月十二日藤田隊に編入され翌十三日には早くも隊長機として出勤したのであつた。

そして翌十四日には芦田曹長が塔乗して、蒙領奥深くナムスク附近の敵飛行場偵察に向かつたが途中敵數機と遭遇して、我が愛國第三百廿三號は初の空中戦を行つた。

ダダダダダ。……

敵を間近く寄せておいて機關銃弾を浴せかけると挑戦して来るのかと思つた敵はクルツと方向をかへてサツと雲間に逃げ込んでしまつた。我が陸鷲の猛撃に一溜りもなく遁走したのである。尙追跡する手はあつたが多數の情報を蒐集して直ぐに報告しなければならぬ重大任務を帯びてゐるので切齒扼腕しながらも歸還したのであるが、この情報蒐集の偵察任務は我が飛行隊にとつて重要なものでその勘忍は猛鷲連の絶讃を浴びた。しかし間もない空中戦に於て見事に敵機撃墜の殊勳を樹てた。

七月二十三日である。

この日は谷口中尉が塔乗して、編隊群長として自ら陣頭に立つて部下の機を率ゐて出動した。「我れ等の愛國號は強し」と意氣燃ゆるが如き全猛鷲の烈々たる闘志の前には敵空軍など如何に多數あるとも問題ではない。堂々編隊を組んで進むうち〇〇上空に達した時果然敵空軍中の精鋭イ十六型廿數機とばつたり遭遇した。

「油断をするな、奮闘せよ！」

の激勵が與へられる、猛鷲連が、ぐつと緊張するひと時である。

「よき敵御参なれ！ けふこそ全滅させてくれるぞッ！」

とたちまち群がる敵機の中に突入して行き、こゝに華々しい空中戦闘が展開された。谷口中尉は完滿と微笑んだ。

「さあ、行くぞ。」

ダダダダ。機關銃は鏘然と火を噴く。ビューン、ビューン



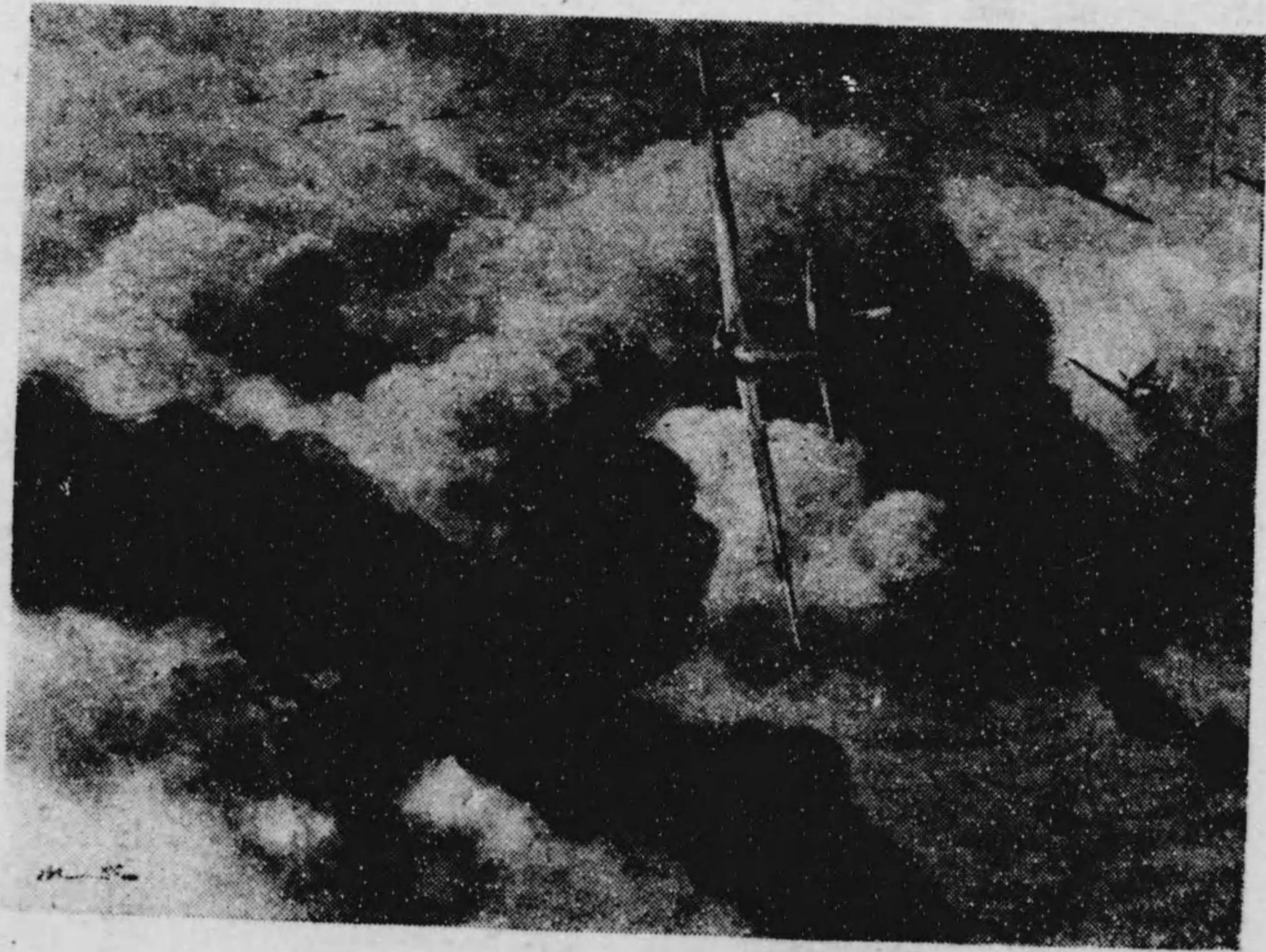
ーンと敵弾も又我が機翼をかすめて飛んで行くやうに思はれるが、

「小癩な奴め、ヒヨロ／＼弾が國民赤誠の愛國號に當るものか！」

と奮戦數合、忽ちに敵機八機を撃墜してしまつた。火焰に包まれ、黒煙をはきながら落ちて行く敵機が幾つも見え

る。更に奮戦は続けられ十三機を不時着させるに至つたが、残りの敵機は我が軍の獅子奮迅の勢ひに早くも算を亂して遁走してしまつた。かくてこの戦闘に於て實に廿一機を斃した殊勳に谷口中尉以下の猛鷲は思はず萬歳を唱へるのであつた。

敵戦闘機群を一舉に殲滅した後、爆撃隊の行動を掩護して進むうち、我が爆撃隊を小癩にも攻撃して來た戦闘機數機と遭遇したので再びこれに猛攻撃を加へて一氣に潰走さ



せ我は堂々と編隊を組んで〇〇基地に歸還したのであつた。

然しこの戦闘では右翼に敵弾一發を受けたのみか、宮谷伍長は敵一機を撃墜した後、自らも敵弾を受けて機上に壯烈な戦死を遂げたのであつた。

基地に歸還して機上銃座に生けるが如く従容として戦死を遂げてゐる宮谷伍長をみたとき、豪勇無双の陸鷲の眼にも休へきれない涙が光つた。

そして各自の胸の中には問はず語らずの内に「仇討は必ずしてやるぞ」と宮谷伍長の靈に誓ふのであつた。

翌廿四日もよく晴れ渡つてゐた。全猛鷲の胸には、きのふの仇討ちの氣魄満々としてゐた。けふも、谷口中尉を先頭に出動し〇〇上空に達すると十數機の敵機を發見した。

「よき敵御参なれ」

と群がる敵機に突入して忽ちに三機を撃墜してしまつた。我が陸鷲の物凄い攻撃に敵はないとみてとつたか、僚機が黒煙をはいて墜落して行くのをみて全く戦意を失つて又しても遁走してしまつた。然しこの一戦で美事敵機三機を落し、宮谷伍長の仇討ちも立派にとげ全機凱歌を擧げて基地に歸還した。

明くれば廿五日、連日の奮戦にも疲れを見せぬ陸の猛鷲は、この日も二度の出陣に十三機撃墜の赫々たる偉勳を樹立した。

この日も谷口中尉を指揮官として〇〇機が出動した。敵は連日の敗戦を一舉に取戻さうとして廿數機を一群として飛來して來たので、心得たと交戦して先頭機一機を忽ち撃墜した所が敵はどうした事か、一機撃墜されるや忽ち機首をかへて全機一目散に遁走してしまつた。

かくて我が猛鷲部隊は一先づ基地に引返し弾薬、ガソリンを補給して、必勝の意氣に燃えて再度出陣、今度は數を増した卅數機の大群と遭遇した。

「今度こそ逃がさぬぞ、今度こそ全滅させてやる、一機も逃すな」

と、激勵が飛び我が猛鷲は日頃の猛訓練にものを言はせるのはこの時だ、と一齊に群がる卅餘機の大群の中に入つた。

追ふもの、追はれるもの、我が機關銃弾は尾を引いて敵機めがけて飛んでゆく。

命中、バツと火花が散る、忽ち火焰が全機を包むと黒煙をはいて機首を下にして落ちて行く。これを見届けて次の敵機へ、交戦數合、これも瞬く間に火を噴きはじめた。壯快極りなき空中戦である。かくて次々に敵機十二機を撃墜した。さすがの敵も半數近くも撃墜されて戦意全く喪失、一機が素速く逃げ腰になつて機首をかへすと全機も慌てゝ之に續いて遁走してしまつた。

かくて我が陸鷲はこの一戦に敵機十二機を撃墜して赫々たる武功を樹て、全機悠々と基地に凱旋したのであつた。

思へば引續き行はれる戦闘に於て我が陸の猛鷲の輝かしい勳功は、敵空軍の操縦士の技術が劣等だといふ譯ではなく又その飛行機が悪いといふ譯ではない。むしろその機は精銳を世界に誇るものであり、その技術も決して劣等ではな

い、では何故だらうか。

それは氣魄の問題である。

皇國の爲め身を賭して戦ふ烈々たる闘志こそ、神代と言はず、中世と言はず、子々孫々相傳へて脈々と通じ來つた所の大和魂の眞隨であり、大和武人の魂である。

その前に戦を挑み得る何者があらうか。

かくしてこそ皇軍は永遠に強いのである。

この烈々たる闘志のもとに國民赤誠の結晶、愛國號があるのであるから國民總意の期待に反せず幾多の勳功を樹てるのも當然である。我が「愛國第三百廿三號河合號」はその後も引續き翼休める暇もなく警戒に出動してゐたが、ノモンハン事件の最後を飾る大手柄をたてる日が遂に來たのである。

それは思ひ出しても歡喜の湧く昭和十四年八月五日である。

この日連戦の勇士谷口大尉は部下〇機を率ゐて勇躍〇〇基地を出發、無電に依る緊密なる連絡をとりつゝ進むうち早くも戰場上空に達した。この時雲間に約廿數機の敵機を發見した。何れもけふの我等の好餌にこのましいイ十六型戦闘機である。

編隊長機として自ら陣頭に立つてゐた谷口大尉は、全機に緊張電撃作戦の指令を發すると共に眞先に群がる敵戦闘機の中に突入して行つた。――

と思ふ瞬間、もう敵一機を撃墜して火焰と黒煙に包まれて墜落して行くのを見た。

「やつたな、さすがは編隊長機」

部下も遅れてなるものかと、一機、一機と、捕へては秘術をつくして奮戦力闘である。

敵は多數を頼みに勇敢にも挑戦して來るので彼我入亂れて壯烈な空中戦が演ぜられた。この時又もや卅數機の敵機が急援隊として加はつて來たので、此處に未曾有の激戦が演ぜられるに至つた。

然し我が陸の猛鷲はその技倆に於て、その氣魄に於て、その上銃後國民の赤誠がこもり、國民の魂がその機翼に乗り移つてゐるだけに物凄い迫力、正確なる射撃は次々と敵機を撃墜してその數は十機に及んだ。

さすがの敵も如何に奮ひたつても、打續いての撃墜に今は全く戦意を失つて、一機、二機と次第にその姿を消し、瞬間に全機逃走してしまつた。

〇機對六十餘機未曾有の激戦に敵十機を撃墜全機無事歸還した。

然し〇〇基地に歸還して調べると我が愛國號は、左脚付根に敵弾を受け、經三纏の彈痕を左翼に一發受けてゐた。如何にこの戦闘が激しかったが想像されよう。かくて損傷箇所は整備員によつて直ちに修理が行はれ、午後の戦闘には再び陣頭に立つて戰場に向かつた。

この時の出動にも敗戦挽回を劃して小癩にも挑戦して來た敵機と交戦して二機を撃墜する勳功を樹てた。

八月五日までの戦闘は右の如く編隊長又は編隊長機として出動して、常に最先頭に立つて偉大なる戦果を収め得たのは一に獻納者の愛國の至誠が、空中勤務者並に地上勤務者の至情と相通じて一心同體となつた結果で、眞に感激に堪へない次第であると、前線部隊から報告して來てゐる。

かく奮戦、赫々たる殊勲の愛國第三百廿三號河合號は「東郷ハガネ」で知られた、東京市日本橋區本町四番地河合佐兵衛商店（代表者は取締役社長河合佐兵衛氏）から獻納されたものである。

昭和十四年七月十二日に〇〇藤田隊に編入されたものである。

猛鷲部隊の下で勲功燦然たる第三百六號

十二機撃墜の谷島中尉と共に散り代機又力戦

愛國第三百六號高島屋號は我が陸軍空軍でその精銳を誇る〇〇式戦闘機である。

迷夢未だ覺めやらず抗日軍は尙國民政府が吹く笛のもとに踊つて、こゝに聖戰二周年を迎へた。轉戦幾度。勝捷の聲と共に皇軍の征くところ戦果はあがつた。

此の日、この時、銃後國民が赤誠をあらはした愛國第三百六號高島屋號は命名式を終つて前線〇〇へと送られて行つた。

昭和十四年七月七日事變記念日に勇猛をもつてなる我が陸軍の加藤部隊山田隊の基地〇〇に配屬され、全員は初の愛國號の配屬に歡喜と感激をもつて迎へ、豪勇果敢をもつて知られた青年將校谷島中尉の愛機と決つた。谷島中尉は國民赤誠をもつて造られた愛國號の榮ある機長と選ばれた榮譽に對して、

「今後は張切つてやるぞ、國民の赤誠と共に飛ぶんだ、奮闘振りをみててくれ」と若き感激を興奮と共に語るのであつた。

遂にその期待の日は來た。

七月十二日だ。谷島中尉は編隊長として自ら陣頭に立つて部下〇機と共に勇躍〇〇に出動した。美事な編隊を組んで進撃するうち〇時頃、偵察任務についてゐた前線の斥候機から〇〇方面に敵一大編隊群が飛翔してゐるとの報告があつた。

當時敵空軍は常に大編隊群をなし、我が方と交戦が初まると何處からともなく、又新手段の大編隊群が現はれるのが常套手段であつた。然し我が陸の猛鷲は如何に敵が多數であるとも數などは問題ではない。いつも滿々たる闘志烈々たる

氣魄でぶっつかるのである。

かくて我が〇機は戦闘體型を整へて進むうち〇〇米の高度を持つ上空に敵機が突如その姿を現はして來た。
「敵殲滅を期して奮闘せよ」

指揮官機からの命令に部下も緊張と覺悟の思ひを固めて數倍の敵の中に入入して行つた。

〇〇米の高空一大決戦の幕は切つて落された。

ダダダ！ うなる機關銃の音。

ビューン、ビューンと機翼をかすめて飛ぶ機關銃弾。

ダダダダ！ 尾をひいて飛ぶ銃弾が美事に逃げ迷ふ敵機の心臓部へアスブスと當る。

パツと火花が散つたと思ふ瞬間、火焰が忽ち機關部に上る、グリーンと大きな音をたて、爆破したのが黒煙をはき、みる／＼中に機首をついて墜落して行く。

まづ一機、と續いて次の敵機を追ふ、何しろ數倍の敵機だ、僚機も縦横無盡、獅子奮迅とはこの事だらう。悲壯な奮戦を續けてゐる。僚機が撃墜したのであらう、遠くに又は近くに、火焰と黒煙に包まれて落ちて行く敵機が幾つか見えるのであつた。

敵は尙も多數を空頼みに小癩にも我が一機に對して前後、左右、上下凡ゆる方向から集中射撃を浴せて來る、これを巧みにかはして逆に敵機を一機、一機と追撃しては、その精確な射撃で撃墜して行くのだつた。

地上は茫々たる大草原、空は雲一點もない青空、その高度〇〇に於ての彼我入亂れての大空中戦を他で見る事が出来たならば、その勇壯無類は到底筆舌にはつくせない所であらう。

かくする中敵空軍は常套手段の新手の後援隊が加はつたので、再びこゝに敵機の數は倍加し殆んど敵機ばかりの情勢になつたが、我が方は物ともせず次々にと撃墜し愛國第三百六號高島屋號だけでも克く四機を撃墜した。

この頃敵機は味方の敗色濃厚となり、續々と撃墜されるのにつきかり浮足が立ち、一機消え二機消え、忽ちにして全機遁走してしまつた。

全滅の意氣に燃え奮ひつた我が陸の猛鷲もこの逃げ足の早い敵には手の下しやうもなく、

「少しは残しておかないと次の機會に射ち落す楽しみがないよ」

と全機悠々と無事に〇〇基地に歸還したのであつた。

この戦闘の初陣に於て吾れ等の愛國號は克く四機を撃墜してゐる。

歸還した猛鷲達は數十分の激しい空中戦闘にも何等疲れの色もみせず、愛國號の機翼をたゞいて、

「御苦勞だつた、あすの戦闘にも頼むよ」

と、我が子に對する如く愛撫と激勵の言葉をかけるのであつた。

この初陣に赫々たる偉勳を樹てた愛國號は打續く戦闘に翼休める暇もなく、越えて七月十六日には敵SB爆撃機十八機が〇〇米の上空を飛來して來たのを發見猛然と追撃を試みた。



然しこの時は敵機が何しろ〇〇米の上空であり、如何に勇敢に追撃しても、この高度まで上昇しての戦闘は同機としては餘りに無暴な事なので残念ではあつたが、それ以上の追撃を思ひ止まつて次の機会を待つた。

所が遂にその機会は來た。

七月廿三日の事である、ソ聯機又も越境の情報を知ると愛國號を先頭に〇機は、

「今日こそ全滅だ。」

と張切る闘志をもつて〇〇國境線上空にと進撃した。

「るる、るる、一機、二機、三機、

約四十機はるるぞ」

我が陸鷲〇機は數倍以上の敵の眞只中にと突き込み、縦横無盡の奮戦



である。吾れ等の愛國號はこの時に二機を撃墜し、部下の友軍機も赫々たる戦果をあげて歸還した。
〇〇基地に着いて弾薬、ガソリンの補給を丁度終つた頃〇〇上空に敵爆撃機の編隊が現はれたとの情報を受取つた。
谷島中尉は、

「よき機会だ、先日は取逃したが、けふは逃さんぞ」

と早くも愛國號の人となるや、俊敏、果敢に〇〇上空にと急いだ。

先日より高度は幾分低いが尙〇〇米である。

「何葉！」と上昇、上昇。

敵S B十八機が小癩にも堂々たる編隊を組んで進撃する中に勇敢にも飛び込んで行つた。

敵は多數を空頼みにしたのと、戦闘機としては無理な〇〇米の高度なので安心しきつて小癩にも我が愛國號に挑戦して來た。

「小癩な奴め！ 今にみろ」

谷島中尉の豪膽さは、この時に發揮されたのである。

精確なる機關銃弾は忽ちに一機を撃墜してしまつた。少數とあなどり安心してゐた敵爆撃隊もアツと驚いた事であらう。

隊形は忽ちにして崩れた、この機會と尙も執拗に食ひさがつて瞬く間に二機を撃墜してしまつた。愈々驚いた敵機を尙も追撃して更に一機を射落してしまつた。此處で敵は全く驚き狼狽してグン／＼高度をあげ遂に自領深く遁走してしまつた。

勇將の下に弱卒なし、この日の部下の奮戦も物凄く、〇〇米上空での大殊勲に天下無敵山田隊の名を愈々知らしめ、赫々たる戦果に全員凱歌を奏し、志氣益々軒昂たるものがあつた。

續いて八月廿五日〇〇機隊〇〇機の掩護のもとに、この日も谷島中尉編隊長となつて自ら陣頭に立ち部下〇機と共に勇躍出動した。

かくて〇〇戦場の上空に達すると圖らずも敵約廿機を一群としたイ十六型戦闘機群と遭遇し直ちに交戦が開始された。この時敵は更に新手を加へて、その數實に六十機にも及んだので、こゝに未曾有の大空中戦が行はれるに至つたが我が愛國號は克く奮戦して忽ちにして三機を撃墜し、續いての戦闘で敵精銳の新型戦闘機四機を撃墜したのであつた。然しこゝに悲しい報告をしなければならぬ。この激戦で多數の敵機を斃つて赫々たる武勲に輝いた我が「愛國第三百六號高島屋號」は遂に歸らなかつた。

思へば支那事變記念日の七月七日勇猛部隊として知られた山田部隊に配屬され、豪勇果敢の青年將校谷島中尉の愛機

となつて、實戦に参加すること幾度、その偉大なる戦果には感謝、感激なくしてはみられぬ愛國號を、沈着果敢陸の荒鷲中の猛鷲として殊勲に輝く谷島中尉と共に喪つた事は惜しみても餘りある所である。

〇〇高原の上空に護國の華と散つた谷島中尉の英靈は永くこの愛國號にとゞまつて、祖國の護りとなる事であらう。かくて「愛國第三百六號高島屋號」は直ちに新造され、再び雄々しき姿を山田隊に現はし歴戦練達の士野口中尉によつて繼承されることになつた。

第一號を失つたとはいへ此處に生れ變つたのだ、と前にも増して全員は愛國號につくし、野口中尉又故谷島中尉の遺志を繼いで、その後歴戦一ヶ月、その間敵機五機を撃墜して面目を施したが、九月中旬停戦協定によつてその鵬翼を休める時が來たのである。

かくて第一號から第二號に繼承されるまで、即ち七月七日から九月中旬までの敵機撃墜は十三機、その他に撃墜しながらも最後まで見届けなかつたもの（これは不確實といふ名義で計算される）五機に及んでゐる。

従つて谷島中尉の撃墜は、

イ十六型機二機、イ十五型二機、S B爆撃機四機、合計八機、この他不確實五機

であり、その遺志を繼承された野口中尉の撃墜は五機といふ事になるのである。

かく輝く殊勲も、前線に於ける武人の限りなき盡忠報國の念、銃後に湧く溢るゝ國民の赤誠の一致による賜である。

愛國第三百六號高島屋號は、東京市日本橋に本店を有する株式会社高島屋、デパート高島屋の社長初め重役、店員從

業員の赤心で造られて陸軍に獻納されたものである。

昭和十四年七月七日、今次支那事變二周年の記念日に、我が陸の荒鷲でも、勇敢無比として知られた猛鷲の譽れ高い加藤部隊山田隊に配屬されたものである。

歴戦撃墜の殊勳甲は愛國第三百七號

奮戦の勇士傷きながらも氣魄の歸還

愛國第三百七號北日本汽船號〇〇式戦闘機

昭和十四年七月十日、我が陸の無敵空軍を以て知られる加藤部隊高梨隊に配屬され精銳部隊に一偉力を加へたのである。

そして榮えある愛國號の操縦者には石井曹長が選ばれた。

我が石井曹長こそは精銳、猛勇部隊にあつてその人ありと知られた技術優秀、沈着豪膽をもつて謳はれた典型的空の武人である。

當時高梨隊は〇〇前線基地にあつて不法越境の相手に華々しい戦闘を続け赫々たる武勳を樹てゝゐた。

事件發生と共に我が陸の猛鷲は出動し輝かしい戦果は世界空中戦史を飾る偉勳をたてたことは國民の記憶にまだ新たな所である。

次の一文は我が猛鷲の奮戦を目の當り見た現地特派員の報告書である。

×

この日午前七時、靜かな國境の空を震はせて微かな爆音が響いて来る。沈黙を守つてゐたわが對空監視哨は俄然緊張、爆音を追つて西南方に鋭い監視の目を注げば遙か地平線上の彼方に十數機の敵機が國境線を越えて大膽にもこちらに向つて蕩進して来るのが望遠鏡の一隅に映じ出された。敵機來襲の非常警報を傳へるサイレンが響き渡つた。緊迫した空気がこの〇〇を包んでしまつた。今まで彼方の地平線上に小さく見えてゐた敵機は見る／＼中にその全貌を現しまつしぐらに襲ひかゝらんとする。しかもはじめ十數機しか見えなかつた敵機の後には三機づつ並んで物凄く續いて来る、みんな數へたら五十機を優に超えるに違ひない。敵の脅威に緊張した身體は脂汗に滲み胸は迫る今はもう空襲の洗禮避け難しとの覺悟が頭をかすめた時、何といふ奇蹟だ敵機は急激に上昇し、ぐつと旋回してその大編隊が怪しく亂れはじめたではないか。瞬間何時の間に來たのだらう、頼もしい日の丸を機翼に輝かしたわが陸の荒鷲の〇機がこの大編隊に向つて眞向に突進して行く「あッ、やるぞ」と思はず叫ぶ、おののいた胸にほつと救はれた安堵が溢れて来る、俊敏を誇るわが精銳機は逃げる敵に向ひ、まさに猛鷲の如く猛然と襲ひかゝつた。次の瞬間未だ嘗て見たことのない壯

烈な空中戦闘が目前の上空に展開された。先頭に進んで行つた荒鷲は突如敵先頭機に襲ひかゝるや、續くわが各機も間髪を容れず敵機目がけて飛びついた激しい機銃の音、物凄い爆音、彼我入亂れて手に汗握る數分間、單葉のソ聯機に彈丸の如く襲ひかゝつたわが一機は、三、四回入り交つたと思つた瞬間、ド、ド、ドッといふ機銃の音と共にソ聯機が黒い煙を吐いて地上に向つて墜落した。單葉の戰闘機だから明らかにイ十六型に違ひない「撃墜だッ、敵機が墜ちたッ」と思はず地上にあがる歡呼、つい先程の恐怖は今心のどこにも見當らない、憎いソ聯機が今われらの眼前で撃墜されたのだ。續いて紅蓮の焰を吐いて敵機が次々と物凄い火焰の曳光を大空に残して墜ちて来る。餘り素早いわが荒鷲の攻撃にソ聯操縦士はバラシユートで逃げる暇もないのだ。打突かつたと思つたらもう敵機は火を吐いてゐるのだ。この壯烈な空中戦を目の邊りにして感激にただ目頭が熱くなるばかり、墜ちた敵機は總計十二機、逃げ足の早い敵機は再三の敗戦にすつかり怯え、今また僚機の撃墜を目撃し、全く戦意を失ひ、外蒙領に遁入した。わが機は追跡を打切り喜色に満ちてるわれらの上空を通過、〇〇基地の方向へ機影を沒したが、その悠々たる飛行振りに今更のやうに感謝と敬讃の念が胸を衝いてこみあげた。

物凄い迫力が勝利をもたらしたのである。我が「愛國第三百七號北日本汽船號」の初陣は七月廿二日である。茫々たる大草原はけふも靜かに明けた。

地平線の彼方に放牧の牛馬、羊の群があり、空には一點の雲もなく、まるで油繪をみる風景で此處が戰場とは思へな

い靜寂さである。配屬されて時の來るのを待ち、陸鷲は腕を撫てゐる。

時に十一時十二分「敵大型機三十機〇〇廟上空に、又敵大型機廿機〇〇臺上空に現はる」出動命令一下陸鷲は愛機に塔乗、小泉隊、安原隊の二隊となつて出陣である。

我が石井曹長は愛國號に塔乗して安原編隊の一番機として加はつた。

かくて〇〇河右岸地区の上空に達するとイ十六型四十機の敵大群と遭遇した。

「よき敵御参なれ、初陣にしては好餌だ」

と小泉隊は左後方から攻撃に向ひ、安原編隊は堂々と正面からぶつかつて行つた。

この豪膽決戦の姿勢に敵は早くも逃げ腰であるが「逃してなるものか」と眞只中に突入して行つた。

照準をつけて浮き足たつた敵機にバツバツと機關銃弾を浴せる、命中した銃弾が心臓部にガンと音をたて、當ると忽ちバツと火焰をはき、次の瞬間もう火焰と黒煙に包まれながら落ちて行くのであつた。

敵機は味方の飛行機が次々と落されて行くのをみると今は全く戦意を失つて突如として機首をかへして自國領へ遁走してしまつた。然し我が石井曹長は愛國號の初陣に敵機を克く四機血祭りあげる偉勳を樹て悠々凱歌を奏して〇〇前線基地に歸還した。

歸還後整備員が調べると四彈を被つてゐたが何れも重要部分をはづれてゐた爲めに戦闘にも、飛行にも差支へなかつた事は不幸中の幸といふべきである。

次の戦闘は七月廿四日である。

殘月西に淡くかゝり東天漸やく白む、茫々果しなき〇〇平原ではきのふの戦闘に疲れた我れ等の陸の精銳機は整備兵によつて活を入れられ、早くも試運転を終つて整列されてゐる、愛國號も精悍な姿をみせてゐる。

午前五時五十分出動命令下る、隊長機を先頭に次々と離陸して美事な編隊を組んで戦場に向つた。

この時敵イ十六型の大編隊群に遭遇し、愛國號の一隊は上空を掩護し敵に不意打の襲撃を食はせる事とし、一隊は大編隊陣の眞只中に突込む事に緊密なる連絡が出来、本間隊は牧野隊長の攻撃命令と共に、壯烈な空中戦が演ぜられた。その間上空から愛國號の一隊が不意に襲撃したので敵は全く狼狽して次々と遁走してしまつた。

かくて一度全機基地に無事歸還し午後再び出動、〇〇上空に達した二時廿分頃〇B爆撃機十八機の敵機が、非常に高度で飛來してゐるのを發見したが、何分にも〇〇米の高度のため、我が〇〇機をもつては上昇追撃が出来ず、切齒扼腕しながら惜しくも大多數を逃がしたが、實に我が愛國號操縦の石井



曹長はその二機を屠るの大手柄をたてた。

石井曹長は高々度上昇のため呼吸が困難なのを克服して、この大編隊に執拗に食ひさがり上昇突進實に十二回の攻撃を加へ、遂に美事に二機を撃墜した大殊勳を樹てたのである。そのうち一機は焼夷弾タンクに我が機關銃弾が美事命中したので、翼中央部から轟然たる爆音をたて、爆發し空中分解をし片々は火焰に包まれながら墜落して行つた。



〇〇機をもつてかゝる高々度に於ける戦闘偉勳は初めての事であり全猛鷲は拍手をもつて絶讃するのであつた。

翌七月廿五日はきのふの殊勳を忘れた如くにけふの敵を求めて出動、〇〇湖付近でイ十五型、イ十六型戦闘機約五十機の大群を發見して出戦を演じて敵機一機を屠つた。

越えて七月廿九日〇〇上空に於てイ十六型戦闘機約四十機と遭遇して、よき敵と直ちに突入奮戦を続けるうち敵は又新手を加へて來たが如何に多數だとして一步も譲らず力戦奮闘、克く三機を撃墜してしまつた。

越えて七月卅一日には〇〇機の掩護の爲めに出動し、その任を果したので味方の〇〇機は悠々と爆撃を敢行し偉大の戦果をあげての歸途、〇〇河右岸地区の上空を約廿機の敵イ十六型戦闘機が東進中を發見、僚機〇機と共に攻撃に向つたが敵は再三再四の敗戦に敵はじと我が陸驚の姿を見ると一齊に戦はずして西方に遁走してしまつた。

又「愛國第三百七號北日本汽船號」は〇〇差支へないために友軍〇〇機を上空で掩護中、突然攻撃して來た敵を追撃して一撃にして一機を撃墜し他を撃退させてしまつた。

かくして遂に感激の涙なくしてはみられぬ石井曹長奮戦の特筆大書すべき八月廿一日を迎へたのである。

この日も〇〇機掩護のために出動した、〇〇機の目標は〇〇飛行場の爆撃にあつた。

堂々鵬翼を連ねて進むうち午前十一時半、イ十五型、イ十六型敵戦闘機群約五十機の大編隊を四千米の上空で發見、直ちに突入して彼我入亂れての奮闘中、石井曹長は不幸にも敵弾を左臀部に受けてしまつた。

「何糞！」

と頭張つたが戦闘不能に陥つたので単機歸還の途につく事にした。

然し途中では手當の施しやうもない爲めに出血は益々甚だしく、血潮は座席に流れ出て、鮮血淋漓として戦慄する程である。

出血が甚だしい爲めに次第に意識は薄らいで行く、自爆し空の武人の最期を飾らうとした事も幾度かあつた。

然し身は鴻毛の軽きにおくも

陛下 の兵器をこはしては申譯がない、國民の赤誠こもれる愛國號をむざ／＼こわしては申譯がない。頭張れるだけ頭張れ。

薄らいで來る意識の中で幾度か、自ら勵まし、自ら力づけて操縦桿を握つてゐた。

然し顔が次第に青ざめ、操縦桿を握る力が次第に弱つて來るのが自分にもはつきりと判つた。然し石井曹長は尙も頭張つてゐるのだ。

陛下 の御爲めに、陸の荒鷲の面目の爲めに、銃後赤誠の國民の爲めに――

あゝ誰れかその武人の氣魄に感激せざる者があらうか。

かくてフラ／＼ながら〇〇前線基地に無事歸還した。着陸した時は全く意識を失つてゐたが、その烈々たる氣魄は着陸の瞬間まで確然としてゐて大事な兵器を壊す事なく美事に着陸したのであつた。

〇〇隊長以下全荒鷲は思はず感激の涙をもつて迎へたのであつた。

あゝ空の武人、豪膽無比石井曹長は刻一刻迫る自らの命をもちへりみず愛機を無事還したのである、その身は直ちに後方野戦病院にと送られて行つた。

x

豪膽沈着、典型的空の武人石井曹長にかはつて「愛國第三百七號北日本汽船號」の操縦者に選ばれたのは若き荒鷲加藤曹長である。

加藤曹長は既に敵五機を撃墜した強者である。加藤曹長による初陣は石井曹長の傷ける翌日即ち八月廿二日である。この日部隊は午後〇時卅分〇〇機の掩護のために出動し〇〇で友軍機が徹底的な爆撃を敢行してゐる際、小隊にもイ十六型敵戦闘機十機が我が〇〇機を攻撃に來たのを発見、直ちに編隊長を先頭に敵戦闘機との會戦に向つた。かくてこゝに壯烈な空中戦が演ぜられ克く敵機を撃墜したが、自らも敵弾を被り今はこれ迄と加藤曹長は愛機と共に空の武人の最後を飾る壯烈なる自爆をするに至つたのである。

あゝ、前線猛鷲部隊に配屬の日より翼休める暇もなく連日の奮闘に赫々たる武勳をたてた吾れ等が愛國號は、歴戦練達の士、實戦の猛者加藤曹長と共に今はなし。

x

かくて第二の「愛國第三百七號北日本汽船號」は新造され、戦場の古強者垂井曹長によつて三度繼承され、戦場にその雄姿を現はしその間一ヶ月に數機を撃墜したが九月停戦と共に鵬翼を休めるに至つたものである。

今その戦果をみると

イ十五型戦闘機一機、イ十六型戦闘機一機、SD爆撃機二機、合計十三機撃墜、その他不確實として最後まで見届けなかつたものイ十六型戦闘機一機がある。

愛國第三百七號北日本汽船號は、東京市麴町區内幸町大阪ビル、北日本汽船株式會社、代表者は取締役社長野村治一

良氏の献金された國防献金で造つたものである。

昭和十四年七月十日無敵空軍と謳はれた加藤部隊高梨隊に配屬されたのである。

満ソ國境の敵機撃墜王愛國第三百十八號

殊勳に輝やく第五貝島號と豪勇森本大尉

愛國號のノモンハン事件に於ける奮闘には世界の注目をひき、世界空中戦史を飾る幾多のものがある。

國民はこの愛國號をもつて奮戦した陸の猛鷲の赫々たる殊勳に感激と感謝の涙をもつて迎へ、猛鷲達は又「國民銃後の赤誠の魂」がかく奮闘させたのだと、こゝに前線と銃後の一心同體の麗しい軍國美談をくりひろげたがこゝにも「歸らぬ陸の猛鷲」の報告書に、烈々たる圖志と、溢るゝ國民の赤誠をこめた愛國號に寄せる感激とをみる事が出来る。

昭和十四年六月廿三日關東軍司令部から我が陸鷲の赫々たる戦果が發表された。

その概略は、外蒙から滿洲國領甘珠爾廟上空に越境飛來して來たソ聯戦闘機約百五十機を発見し、我が陸の荒鷲は僅

かに十八機をもつて之に向ひ、獅子奮迅、寡兵よく大軍を相手にして一步も譲らず實に四十九機を撃墜し敵に殲滅的打撃を與へ、こゝに未曾有の戦果を収めたのであつた。

然しこの奮戦中に我が方も又四機を失つた。といふのであるが、こゝに奇しくも發表の朝に歸らぬ陸の荒鷲森本重信大尉から、陸軍航空本部西原少佐の許に書簡が届いた。

これは眞に西原少佐から、森本大尉の許に「國民赤誠の愛國號は如何に活躍してゐるか」との問合せに對する回答である。

それによると愛國號が國民の魂を機翼に乗せて如何に活躍してゐるかゞ知れると共に、愛國號に對する陸の荒鷲の溢れる感激がハッキリと判り、これを知る國民は歡喜せずにはゐられない氣に満ちる。

陸軍航空本部西原少佐の許に届けられたものは、我が九州の炭鑛王で知られた貝島太郎氏が溢れる赤誠から献納した、愛國號第三百十八號第五貝島號〇〇式戦闘機の奮戦振りに關してである。

愛國號第三百十八號第五貝島號は森本重信大尉の麾下にある中隊に配屬されて、昭和十四年五月から翌六月にかけてノモンハン事件に参加して、その優秀な性能を發揮して敵LZ一機、イ十六型戦闘機一機を撃墜し赫々たる武功を樹てた。

續いて愛國號に對する飛行隊員の感激を次の様に傳へてゐる。

一、中隊に愛國號を配屬されるや、將校以下國民愛國の結晶を目の當りに見、士氣大いに振へり

一、貴重なる兵器、何れに甲乙あるべきに非ざれども愛國號に接するや、人情として自ら愛護心加はり、取扱丁寧、點檢手入れも行届き未だ些の故障を見ず

三、愛國號の無事を祈る整備員中には人知れず、肌身離さず所持せる御守を外して機體に結び付け、その武運長久を祈るものありその純情涙なくして見られず

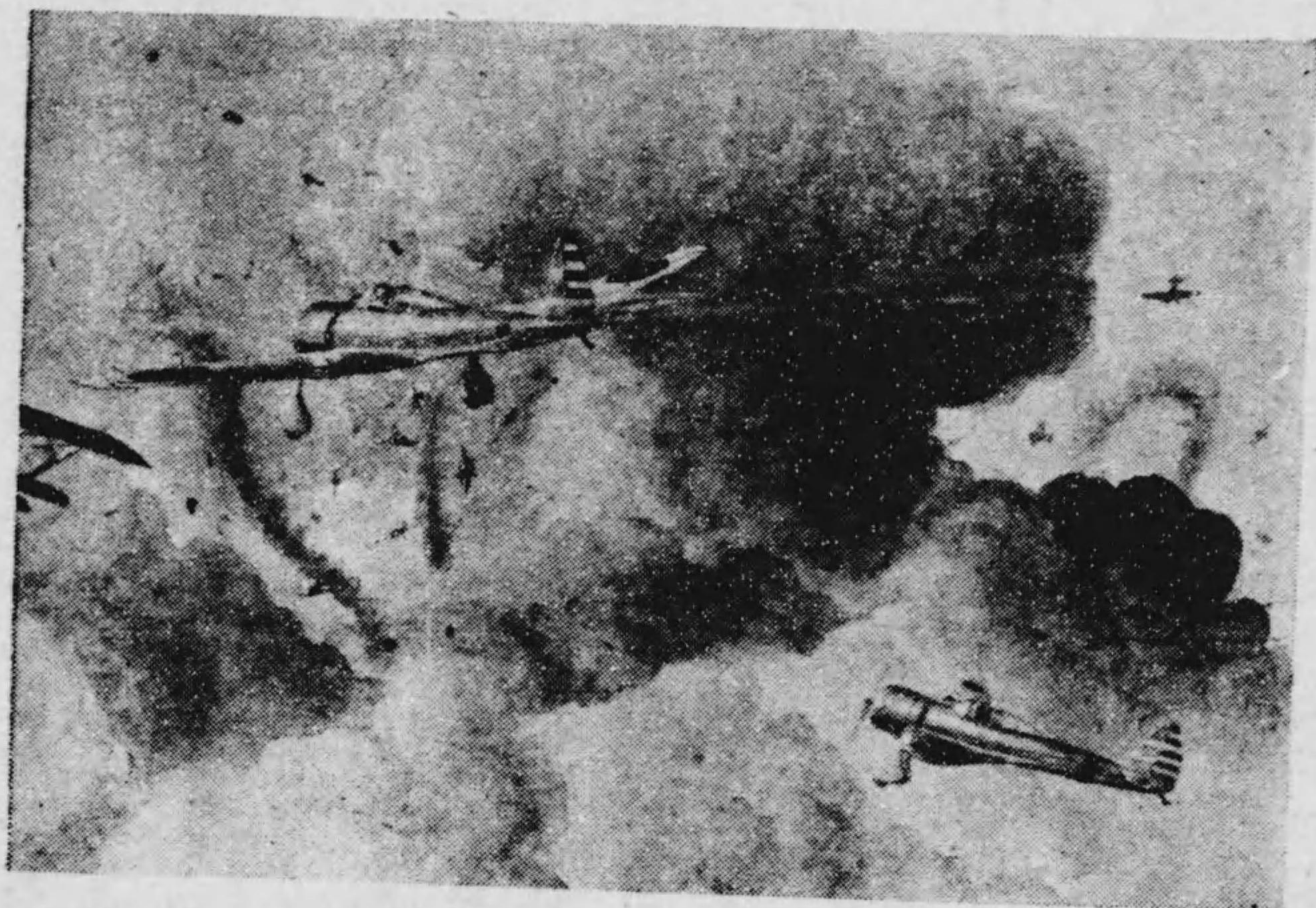
とあり愛國號に對する熱誠あふるゝものがある。

この報告をして來た森本重信大尉は愛知縣愛知郡猪富村大字上社字後田一三〇の出身で陸士第四十二期生、昭和五年七月飛行第二聯隊付となり、同六年十月少尉任官と共に飛行第八聯隊付となり、昭和八年八月に中尉昇級、同十年八月下志津飛行學校教官、同十一年十二月熊谷陸軍航空學校教官、同十二年三月に航空兵大尉に昇進、同十月熊谷飛行學校教育隊付、越へて昭和十三年六月から關東軍勤務となつた、我が陸の荒鷲中の偉才と謳はれてゐた俊敏、豪放、勇壯なる典型的な武人であつた。

x

この日の戦闘の詳報について現地の新聞特派員の報ずる所は次の通りであるが、これによつても、當日如何に我が陸の猛鷲が寡兵よく敵の大軍を相手に奮戦し、過ぐる昭和十四年五月廿八日ノモンハン空中戦を凌ぐ輝かしい戦勝記録であつたかゞ知れる。

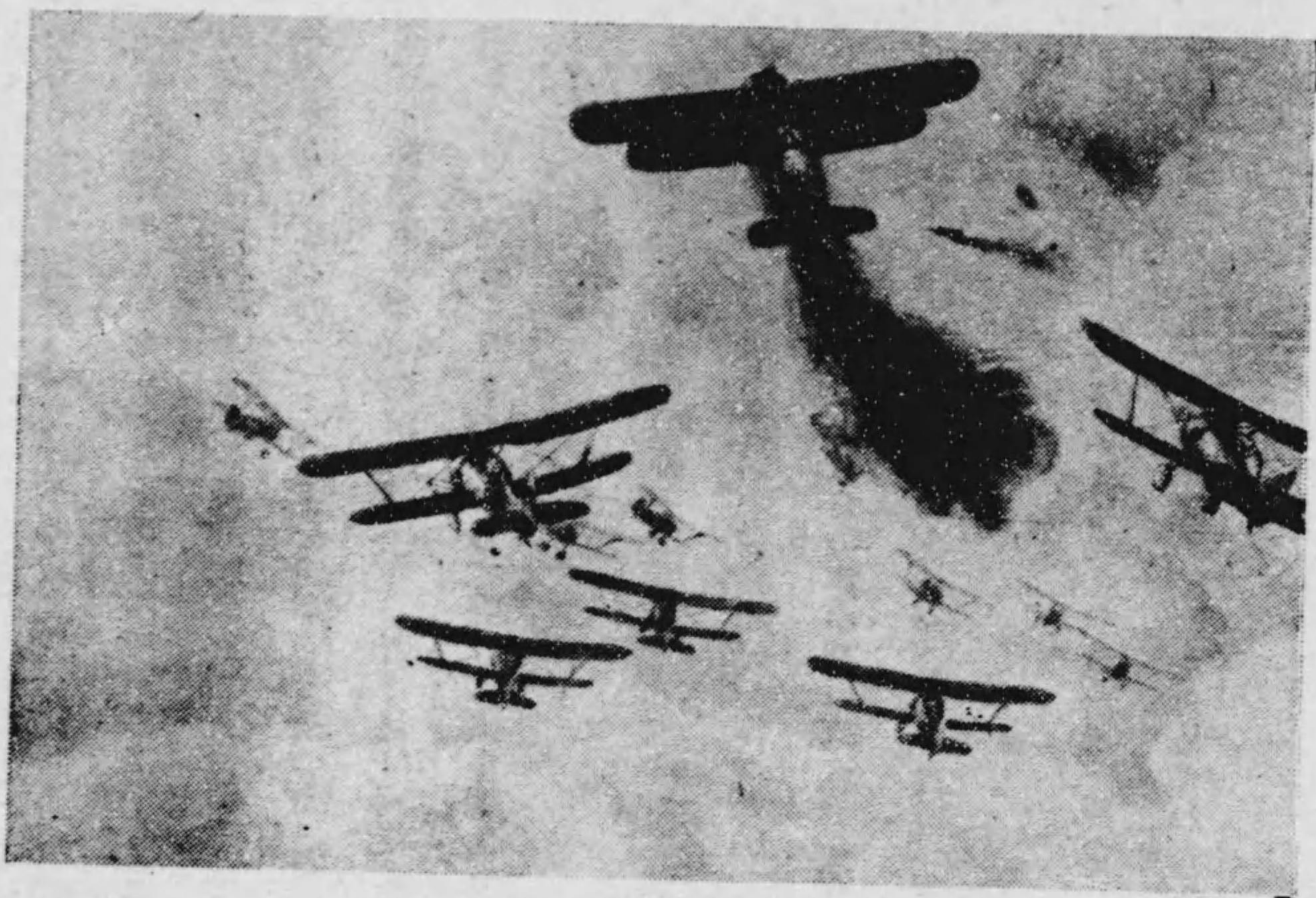
この日、昭和十四年六月廿二日午後四時頃、貝爾湖の北岸哈爾哈爾上空滿洲國內に敵機大編隊が越境したとの報告に



接した我が松村部隊は直ちに阿穆古朗上空まで北進しつつあった、敵小型戦闘機六十機を發見、T字型體形をもつてそれに突入陽光鮮かに映ゆる貝爾湖上空へ追撃蒙古平原特有の積層雲のさなかに痛快極まりなき激撃戦が展開され撃墜十八機地上不時着二機、掃射を浴びせてこれを火發せしめて一まづ悠々歸還したが、悲しくも内一機森本大尉機は歸らなかつたのである。

この第一回空中戦において代永中尉は敵編隊を盛んに射ちまくる間に機關銃の故障で彈丸が出なくなつたのを發見するや逃げ延びんとする敵機一機を飽くまで追究遂に敵機をして貝爾湖岸の地上に撃突破壊せしめ、また古澤中尉は左足に盲管銃創をうけたがひるまず鮮血を浴びて歸還、やがて一時間後に行はれた第二回戦に参加せるなど全員士氣いよゝ旺盛である。

この日の敵機はイ十五、イ十六の兩種で機體にいづれもソ聯極東飛行隊のマークが記されて搭乗者はいふまでもなくソ聯飛行士であつた。



かくて敵機をして遙に外蒙の奥地に敗走せしめたわが空軍は息づく暇もなく午後五時新手を加へた百機が小癩にも雪辱の意氣に燃え再び哈爾哈爾上空に侵入、續々北進中であるとの報に接し高鳴る腕を撫して勇躍離陸、同地上空において敵機を發見するや眞正面からそのまゝの體形で一氣に突入、殆ど全機とも一機をもつて十數機を相手に近接戦闘を行ひ夏雲高き一千乃至二千メートルの高度で壯烈なる激撃戦を展開二十五機を完全に撃墜といふ胸のすくやうな返り討を與へた。この第二回空中戦では單機二十一機の敵に突入、一躍勇名を轟かせた齋藤正曹長は百機の敵に包圍されたが少しもあわてず飽くまで正面攻撃で血路を開く以外生還の望みなしと悲壯な決意をなし猛烈な體當りを喰はせ横轉まさに墜落せんとするを巧に浮き上らせた。

その豪膽極まる戦術を見て距離をあけた敵集團の破れ目を發見、まつしぐらに血路を開いて無事歸還したが、齋藤機の左翼には大穴があき更に尾翼安定板をもぎとられるなど遺憾なく勇戦の跡を物語

つてゐるが、同機この日の戦果はたゞ一機をもつて空中撃墜六機、地上發火三機、破壊九機といふ大手柄、この外鈴木中尉は戦闘中大切な右腕を敵の機銃で貫通されたが鮮血に染つた身を顧す左手でしつかりと操縦桿を握りながら悠々歸還、なほ宮島四孝曹長（長野縣出身）吉野芳雄曹長（千葉市出身）石塚國藏曹長（千葉縣出身）辰巳各曹長の操縦する四機は遂に悲壯なる自爆を遂げてしまつたと思はれてゐるところ辰巳機のみ同日の戦闘でガソリンを切らし哈爾哈廟西北約三十キロの地點に不時着、同曹長は同夜飲まず食はずで呼倫貝爾草原を歩き通し二十三日朝漸く〇〇基地に辿りつき「愛機を置き去りにして歸り誠に申譯ありません」と報告したので時を移さず友軍が出勤、無事機體を收容した。

かくてこの日再度の戦闘で敵機四十九機を撃墜破、わが歸還せざるもの四機といふ赫々たる世界空中戦史を飾る戦果をあげて再びわが陸の荒鷲の戦勝記録を作つたのである。

かくの如く、五月二十八日の空中戦以來武勳を輝かせた森本重信大尉、宮島四孝、吉野芳雄、石塚國藏三曹長の四勇士は壯烈な戦死を遂げたものとほゞ確認されるに至つた。

愛國第三百十八號第五貝島號は、赤誠家をもつて知られた下關市唐戸町、貝島炭鑛株式会社（貝島合名會社その他多數會社長）貝島太市氏の多額の献金から造られたものである。

傷けど銃後の魂護る第二百十二號還る

沈着豪膽の兩勇士殊勳燦然と輝く

愛國第二百十二號東拓號

愛國第二百十二號東拓號は東京市麹町區内幸町東洋拓殖株式会社（總裁安川雄之助氏）から献納されたものである。

愛國二百十二號東拓號は我が陸の猛鷲中の猛鷲部隊として知られた山口部隊に配屬され全支に鵬翼を張り、未曾有の奮戦を續けて來たが、こゝに銃後の魂がこもる「愛國號は強し」の感を深めた一事がある。

昭和十五年八月廿五日我が山口部隊は興安南方の敵陣爆撃の命を受けて〇機編隊鵬翼を連ねて堂々と出陣した。

この爆撃行の中に我が陸鷲にあつて技術優秀をもつて知られた八木俊雄曹長（静岡縣出身）の操縦、安藤隆曹長（岡山縣出身）同乗の「愛國第二百十二號東拓號」も加はつてゐた。編隊長機を先頭に堂々出陣間もなく敵陣地上空に現は

れ、精確なる照準のもとに一個、一個爆弾は投下されて行つた。

我が精確なる照準は狂ふ譯がなく、美事に敵陣地は巨弾の雨を浴びて一大音響と共に爆破されて行つた。

この日、敵の高射砲は物凄く、我が方の空爆を知るや、一齊に砲門を開いて忽ち彈幕を張つてしまふ様であつた。

炸烈する高射砲弾は中空高く火華を散らして物凄いのがあつたが、我が陸の猛鷲は、

「敵の高射砲は當るものではない」

と烈々たる闘志にもいさせて、平常の訓練と何等變る事なく、悠々落付きはらつて彈幕の間を縫つて爆撃を行ふのであつた。

八木曹長の操縦する我が愛國號も搭載爆弾を次々に投下して爆撃を終つた時、突然に大きなショックを感じた。

「小癪な奴め、やつたな」

と思はず叫んで後をふりかへつて見れば、何んと高射砲の炸烈弾で尾翼をふつ飛ばされてゐるではないか。

ユラユラとするが墜落するやうな事はなさそうだが、八木曹長はしつかと操縦桿を握つてゐる、最期の時が來れば武人の華として自爆するだけの覺悟は出來てゐる。

エンジンの調子は何等變つてゐないので、

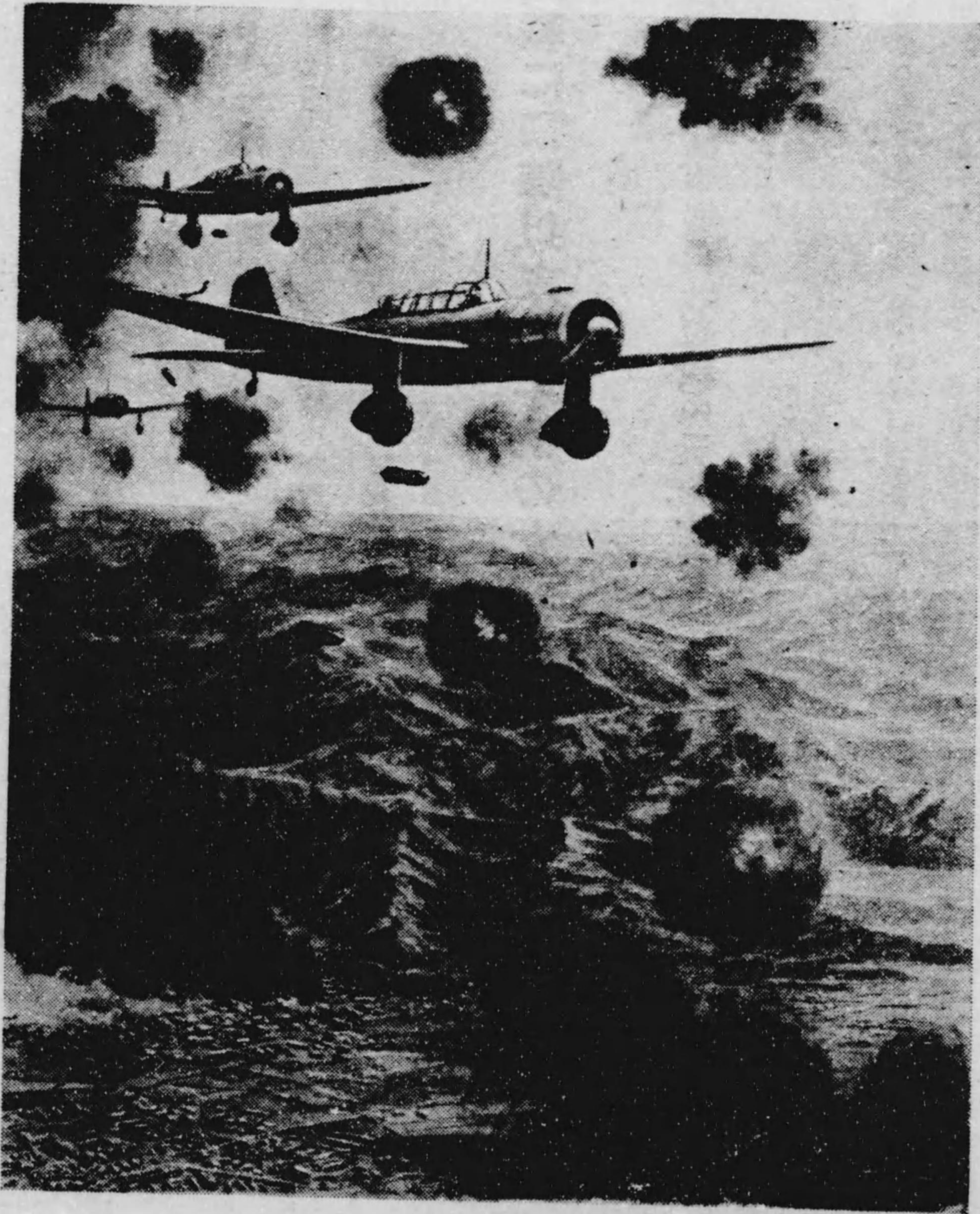
「これなら飛べるぞ」

その豪膽沈着は突差の判断である。

「陛下　の飛行機を壊すな國民赤誠のこもれる愛國號をつぶしては申譯がない」

瞬間にその腦裏にひらめくよし飛べるだけ飛んでやれ。と冷静そのもので操縦桿を握る態度は傷ける愛國號を操縦してゐると思へない沈着ぶりである。

かくして悠々〇〇軒
〇〇時間の飛行を続け



て無事に〇〇前線基地に歸還した。

無事に車輪が地上についた時は出迎へる整備員も、基地の猛鷲達もホツとした、そしてその豪膽、沈着ぶりに思はず絶議の拍手を送つたのであつた。

我が猛鷲の優れた技術と共に、溢れる國民の赤誠が傷ける愛國號を無事に基地まで歸還させたのだと一同は感激するばかりであつた。かくて同機は直ちに基地で尾翼の取換へを行つて次の戦闘に備へる事になつたが、山口部隊ではこの奮戦中に破損した同機の安定板と昇降舵を献納者の東洋拓殖株式會社に贈つて銃後の赤誠に應へることになつた。

敵殲滅戦に初陣以來大手柄の女學生號

初陣は滿洲事變勇壯奮戦の五勇士哀しくも今は亡し

愛國第三十號女學生號

愛國第三十號女學生號の奮戦は前の滿洲事變の時に初まり、その殊勳は赫々たるものがある、全國女學生の乙女の魂こもればこそその奮戦が出来たのである。

滿洲事變當時その愛國三十號女學生號に搭乘して殊勳をたてた陸の猛鷲は、我が航空界の至寶と驅はれ、かつて航研機に搭乘して世界記録をつくつて「陸鷲にその人あり」と知られた藤田雄藏中佐を初め、飛行〇〇聯隊付で今次事變に出征活躍して金鷄勳章の榮譽に輝く堤政雄航空兵大尉、又その技術に豪膽さに知られた佐藤仁平航空兵大尉、山路治郎航空兵中尉、藤井徳航空兵少尉の五勇士は今は既に亡く、靖國の宮に神鎮りましてゐるが、今尙その英靈は愛國三十號女學生號に搭乘して、全支の空を、將又國境線への護りにと快翔を續け、後輩の荒鷲を指導し、こもる乙女等の魂と共に守護に任じてゐるのである。

今こゝに滿洲事變に活躍の記録をたどり五勇士と共に奮戦せる女學生號の戦ひの跡を偲ぶのも無駄ではなからう。熱河作戦に於ける藤田中佐の活躍は實に花々しく、特に女學生號の奮闘はめざましいものがあつた。

この頃よくお天氣が續き空には一點も雲もなく、僅かに北風が吹いて寒い事はさすがに滿洲を思はせるものがあつたが、陸の猛鷲は寒さなどに驚かず連日の好天候に張りきつてゐるのであつた。

當時の熱河省は事實兵匪の巢窟であり、陰謀の策源地であつた。つまり省長の湯玉麟は熱河省が滿洲國の領域であるに拘らず、旗幟鮮明を欠いて、北平軍權の張學良と密に氣脈を通じ、反滿、反日を策して滿洲國擾亂の魔手を振つてゐたのみならず、張學良自ら正規軍を熱河省に侵入させて露骨に挑戰的態度を示してゐた。

然もその兵力は四十萬と稱せられてゐた、勿論これは正規兵ばかりでなく雜色軍や、北支の豫備軍を合せての事だらうが、その數に於ては關東軍とは問題にならぬものであつた。これ等の軍はたゞ多數を頼みにしてゐるもので、少數は

負けるとの考へを起してゐたのである。所が皇軍ひと度起つや陸の猛鷲のめざましい奮闘と伴つて朝陽西方約十軒の地點では敵兵二千有餘を粉碎する等赫々たる武勳をたてたこの時は堤大尉は優秀な技倆を發揮し離れ藝を演じて友軍との情報連絡を行つて絶讃をあげたものであつた。

越へて河北作戦に参加して女學生號は更に奮闘を続けたのであつた。

この日、昭和八年四月廿二日堤政雄航空兵大尉が操縦席につき、中隊長藤田中佐が自ら偵察者となつて、愛國第三十號女學生號は勇躍戦線に向かつた。

前線に於ける師團攻撃に協力して、敵陣地の爆撃、集結敵軍に機關銃弾の雨を降らせたのであつたが、不幸にして敵弾一發は機關部の冷却装置器に命中して發動機はハタと停止してしまつた。

「しまつた、小頼な奴め」と思つたが今はどうする事も出来ない敵陣上空である。

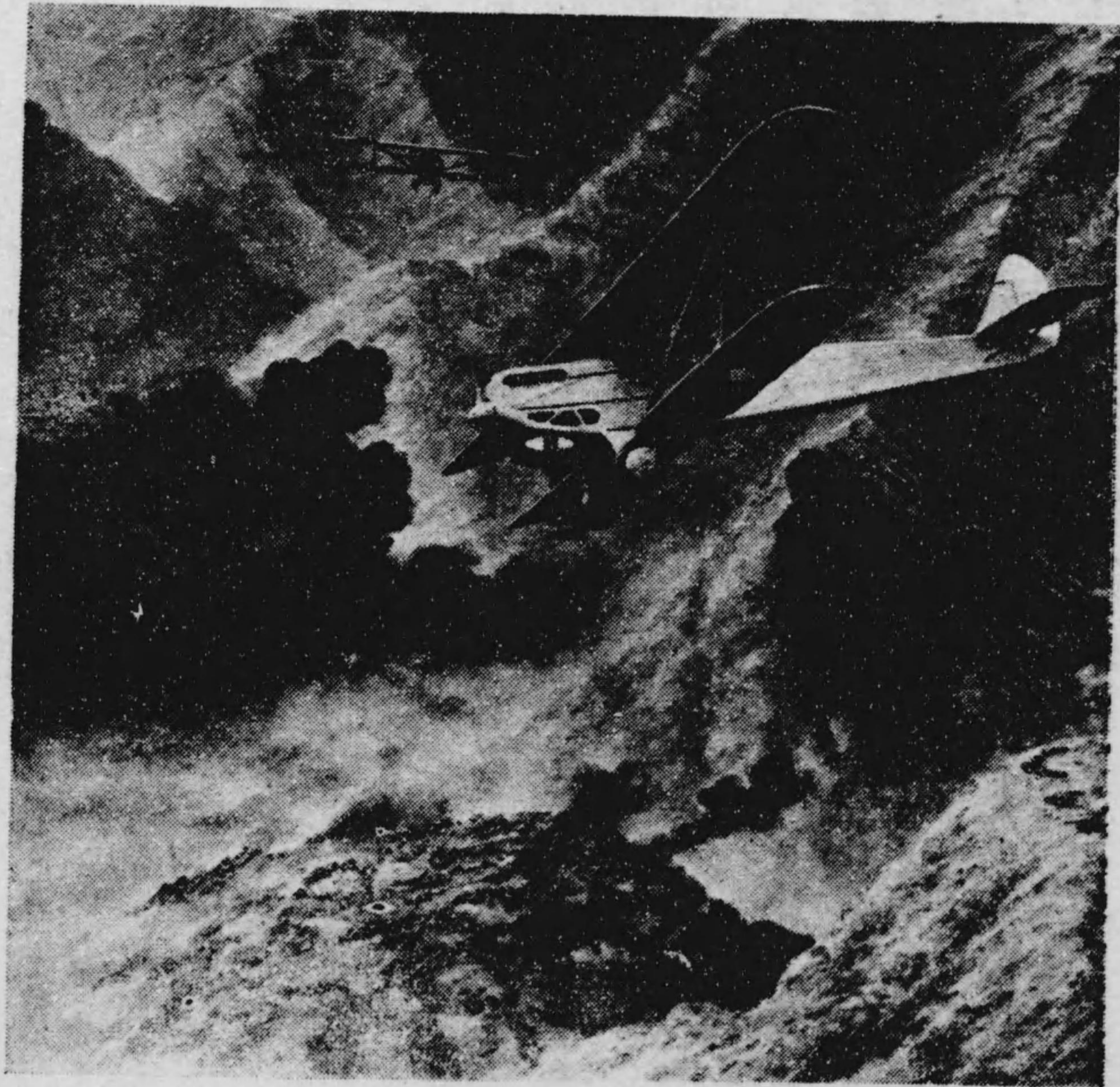
南天門近付の敵陣、三望樓附近の敵陣地その他二ヶ所を猛爆機關銃弾の攻撃だけでは物足りないと尙も敵粉碎に征かうとした時の事であるので、見渡す限り敵陣地と山又山である。



遠く萬里の長城が見へる、山又山で着陸は出来ないのである、あゝ全國女學生の魂こもれる愛國第三十號女學生號諸共、武人の最期を飾る敵陣めがけて壯烈なる自爆をすべきか——然し發動機は停止しても自爆はまだ早い、

陛下の飛行機をムザ／＼壊す事は出来ない、と思つてゐると、我が戦線内の古北口附近に狭い河原があるのを発見した。

さうだあそこに着陸しようと機首を河原に向けたのであつた。そして空中滑走美事に河原に着陸したが、此處も我が軍の戦線内であるとはいへ敵前の大砲機關銃の咆哮は聞へるのであり、発見されれば一溜りもない地點である。



然し堤大尉の優れた技術は、全日本女學生一同の至誠から生れた愛國號を救つた、これも銃後の魂がこもつてゐるからである。

兩勇士は着陸後故障個所の修理に取かゝり遂に敵前で危険な一夜を明してしまつたのであつた。

翌日この遭難を知つた味方の飛行場では直ちに下士官、兵の作業班を着陸場へ送つて敵前必死の作用が行はれ、午前十一時頃に全く修理を終つた。かくて兩勇士は再び愛國號に搭乗して雄姿を戦線に現はし、きのふの仇討ちと敵陣地を縦横無盡と飛翔して勳功を樹てたのであつた。

この時に冷却装置に命中した敵弾を堤大尉は持ち出して「これは僕のマスコット」だと所持するやうになつた。

かくて其の後師團が南天門一帯の高地線に輝かしくも燦たる日章旗をたてる迄、堤大尉は愛國號を操縦して敵陣上空を飛翔して、或る時は敵情偵察に、或る時は勇敢なる急行下爆撃を敢行して攻撃し、又敵陣爆破に數々の偉勳をたて、殊に興隆縣を準備してゐた島村部隊約二百名が、數千の敵兵に包圍され彈藥欠乏して苦境にあるを知るや、黃砂萬丈として視界も殆んどきかない山又山を越へて友軍の救援に向ひ、包圍する敵に大爆撃を加へ又連續的急降下機上掃射で敵軍を殲滅させた。又この時周圍の山からは敵が盛んに射撃して來たが、これ等の彈雨の中をくゞつて低空飛行を行つて友軍に彈藥や糧食を投下して、地上増援隊と相呼應して遂に敵を撃退した勳功をたてたのであつた。

かくして愛國號は次々に名操縦士の手によつて敵陣爆撃に、攻撃に、偵察に殊勳を樹てたがさすがの敵軍も、我が大御稜威と盡忠報國の光には敵し得ず五月廿五日和を我が軍門に乞ふたので停戰協定成立し錦州に引揚げるまで奮闘した

のであつた。思へば事變に活躍の勇士を今次支那事變で喪つたことは眞に痛惜の念に堪へない所である。

x

かくの如く滿洲事變當時早くも數々の武勳を樹てた愛國三十號女學生號は、今次支那事變が勃發するや前線に送られて、實戦二度のお務めに幾多の勳功をたてたのである。

撃墜の名人「命有り少尉」と共に活躍の第三百廿五號

——敵編隊群の後から無警告撃墜に敵機續々と墜落——

戦場から送られて來る快報に「又敵機を撃墜した」「今度は敵戦闘機の大編隊群を徹底的に潰滅させた」「國民が獻納の愛國號の奮戦は目覚ましいものがある」等々と、次から次へと續くニュースに、三宅坂の陸軍航空本部も、その都度歡呼して嬉ぶのである。

これが新聞なり、ラヂオなり、雑誌なりによつて發表される時に、陸の荒鷲の總元締より嬉ぶのは、赤誠溢るゝ國民である。

吾れ等が献納の「愛國號は強し」と、吾れ等も聖戰の一端に参加した気分となり、益々銃後御奉公へのほぞを固めると共に、戦場にあつて不屈の皇軍魂と満々たる氣魄のもとに、たゞ大君の御楯となりて闘ふ、陸の荒鷲に感謝、感激し、そして武運長久を祈るのである。

けふも戦場から我れ等の愛國號は、戦はずして敵二機を撃墜した快報に接したのである。

ソ聯空軍を相手に我が陸荒鷲の空中戦は献納愛國號を交へて、一戦毎に華やかな戦果をあげてゐるが、この日の空中戦には愛國第三百廿五號（東京鑛物献納）が面白い手柄を樹てた。この機の操縦者は野口部隊隊長長谷川智在少尉（岐阜市徹明町出身）だ。既に敵機十六機を撃墜した長谷川少尉は最近にその愛國號を與へられたばかりである。

この日午後三時頃ハルハ河畔を飛行中の長谷川〇隊は約一千メートルの上空でソ聯機イ十六型二十機の編隊と突然ぶつかつた。敵は我が機を少数と見てぐんぐん寄つて来る。ところが長谷川〇隊は他に重要任務を帯びてゐるのでこれと空中戦は成るべく避けねばならぬ。よし敵を誘ひ込んで友軍に引渡して喜ばしてやらうと突然敵に飛びかゝる如く見せかけながら、いきなりさつと曲つてしまつた。何しろ敵は数が多いので慌てゝ大編隊が曲らうとした時、三番機と、五番機が空中接觸したと思ふ間にバツと二機は火花を散らして墜落した。

それをソ聯軍は奇襲を食つてやられたと感違ひしたらしく、蜂の巣を叩き毀したやうに大騒ぎとなつて、上空へ行くもの、下へ降りて逃げるもの、五分間位ワン／＼と大騒ぎをして右往左往するばかりである、この間に長谷川〇隊は悠見物して引揚げてしまつたのである。

この戦闘の殊勳者「命有り少尉」と愛國の献納機「東京鑛物號」との因縁ある物語りがある。「イノチアリ」少尉とはノモンハンの荒鷲部隊で有名な長谷川智在少尉のことだ。陽にやけて色の黒いこと随一、腕前のいゝこともまた定評といふ長谷川少尉を何故「命有り」少尉と呼ぶか。それは長谷川は養家の姓で、最近までは井野といつた、「井野智在」——これをそのまゝに讀めばイノチアリとなるのである。

命有り少尉は生れは千葉縣だが今は岐阜市徹明町だ。キビキビと齒切のいゝ關東弁でユーモアを機關銃の様にバンバン飛ばす。七月下旬（昭和十四年）までにソ聯機を十三機墜しながら「——ああ、不漁だなあ」と嘆いてゐた。テントの中では將棋の名人？で吉山曹長を相手にいつも勝つたり負けたり。「形勢はどうぢや」といつぞやテント附近をアラリと通りかゝつた〇隊長が覗きこむと、無我無中で將棋盤を睨んでゐた少尉は「ケイセイ（傾城）は高尾ぢや」と、歩をついて、ふと頭を上げると、何と相手は〇隊長ではないか、すつかり周章てた少尉は、立上るはずみに折角勝ちかけた將棋盤は引つくり返してしまつた。と云ふ珍談もある。

濃刺たる空の青年將校「命有り少尉」を彩る逸話は數へ切れない。五月下旬、湖畔の血戦にソ聯機を一日に三機葬つて序に、不時着機の光富中尉を救つて、一路生還の機上で、うしろに蹲む光富中尉の頭をたゞいて、グリコを差出してゐたとのこと、——しかしさうした中のヒットは「無警告撃墜」の話題だらう。

昭和十四年七月二十三日、新しく與へられた「東京鑛物號」に大悦びで乗つて敵S.B.二機を空中衝突させたが、それから數日後の突中戦で、イ十六二機を墜して來た日の報告——に曰く、

「長谷川は河股上空の戦闘後歸途に就くとき下方にタムス方向に歸ららしい敵機約二十を發見しました。跡をつけるに敵はちつとも氣付かずにあるので、編隊の最後にゐた機にうしろから無警告で撃ちました。すぐ墜落しました。パツと火を吐いたのであります。それでまだ他の敵は氣付かず堂々と編隊でゆくのでもう一機こつそり撃ちました。非常によく燃えて落ちました。これで敵も漸く氣付きまして、ワン／＼隊伍を亂したので永居は無用と快々的（支那語で早くといふ意）で歸りました。撃墜二機、あの墜された奴は何が何で墜されたか分らずにゐると思ひます。終りッ！」

これには隊長以上思はず腹を抱へた。と云ふ事である。

次に東京鑄物號が〇〇部隊配屬後の奮戦の跡をみよう。

一、昭和十四年七月十二日

〇〇補給廠より野口部隊島田隊に交付され、部隊長は之を長谷川少尉機として支給す。小生〇〇基地に於て試験飛行せり。機體、發動機、機關銃共に機能良好、歡喜雀躍す。

二、同 七月十三日

敵機盛んに出没せるの情報に依り早朝〇〇基地を離陸、砲煙醒き第一線の〇〇前進場に躍進、待機す。

三、同 七月十七日

戦線上空遊撃哨戒中、夕刻敵機「エスパー」爆撃機約〇機を發見すれど敵機は我が戦闘機を恐れ高空を飛びありし爲め捕捉する能はず、敵機は快速にて外蒙國境に逃飛す。

四、同 七月廿三日

敵飛行場攻撃の命に依り勇躍離陸、國境に向ひ飛行中、敵「エスパー」中型爆撃機我戦線を爆撃せるを見、之を急追するも敵機は我戦闘機を恐れ高空を飛行しありたる爲捕捉撃墜するに至らず。

五、同 七月廿五日

〇〇の重要任務を帯び國境線を哨戒中、敵「イ」十六型戦闘機我を發見、寡少なりと侮り急速接敵し來る。小生は之を友軍線内に誘致すべく行動中、狼狽の餘り敵機相接觸し大火災を起し燒墜す。他は恐れを爲し逃げ去る。小生高見の見物を爲し哄笑せり。任務終了歸還せんとしたる時、敵の騎兵〇〇騎「ハルハ」河を越え將に渡河せんとするを發見、僚機と共に對地攻撃を行ひ確實に其の三分の一を斃せり。地上の敵に對する初の戦果を此の日擧げたり。

六、同 七月廿五日

川又附近上空に於て敵「イ」十六型戦闘機約四十機と交戦、友軍機寡少なるに拘らず奮戦又奮戦、遂に其の四機を確實に撃墜せり。鑄物號最初の敵機撃墜は四機にして、斯くも一戦闘に於て多數の敵機を撃墜し得たるは實に獻納者諸氏の見えざる魂の結晶によるものなるべし。我機は損害なし。

七、同 八月七日

「ハルハ」河國境に於て夕刻敵「イ」十五、十六混合編隊群と交戦、此の時戦闘途中に於て機關銃に故障を生じ無念遂に一機も撃墜し得ず、残念にて夜も寝られず夢許り見る。我機の損害なし。

八、同 八月十七日

○敵飛行場群の隠密搜索を實施したるも雲低く處々雨天にて任務を達成し得ず。

九、同 八月廿日

午前敵「イ」十六型戦闘機約三十機と交戦、逃ぐる敵機三機を急迫し其の中一機を確實に撃墜す。敵の操縦者は地上約百米にて落下傘降下を爲したるも、落下傘の一部焼却したる爲め惨死せり。小生其の傍らに着陸し燃ゆる敵機を眺め、名譽の戦死を爲せる「ソ」聯操縦者に哀悼の意を表し無名花を捧げ、落下傘の一部を戦利品として持ち來る。我機の損害なし。

十、同 八月廿一日

○攻撃の任務を帯び勇躍出動す。任務地に到着するや猛烈なる高射砲弾を浴せられたるも巧に之を避け僚機と密接な連絡を保持中、敵戦闘機（イ十五、十六）と遭遇激烈なる戦闘を交へ其の一機を撃墜せり。此の時地上の敵の爆撃機整備（エスベ一機）しありたるを認め、敵の高射砲を物ともせず對地攻撃を爲し確實に燃上せしめたり。燃上せしめたる敵爆撃機一機なり。我機損害なし。

同日夕刻、未歸還機の搜索に單機にて赴く。搜索の結果友軍と敵の中間に燃上しありたる僚機を発見敵前着陸す。操縦者遂に見當らず、此の時前方にありし敵戦車猛烈なる速力にて愛機目がけて進撃して來りたるを以て間一髪の内離陸す。後○○の道路側に着陸、地上部隊に此の由を報告せるに既に該部隊に救出收容せられあるを知り○○に歸還着陸す。

部隊長に報告任務を達成す。

十一、同 八月廿七日

○機掩護の任務を帯び國境線にて哨戒中、敵機「イ」十五、十六混編隊群と交戦克く其の一機を撃墜す（イ十五撃墜）此の時愛機の尾部に敵弾一發を受けたるも飛行に何等差支なし。（最初の敵弾を此の時に受けたり。申譯なし）

十二、同 八月卅一日

戰場上空哨戒中敵「イ」十五、十六約二十機と交戦、「イ」十六は逃飛したるも十五容易に逃飛せず、之と戦闘を交はし相當數の機關銃弾を浴びせたるが遂に撃墜し得ず。

十三、同 九月一日

制空の爲め戰場上空哨戒中、敵「イ」十五、十六約八十機と戦闘す。最初「イ」十六戦闘機の大編隊内に單機にて突入す。此の時敵の重圍に陥り前後、左右、上下より熾烈なる砲火を浴びたるが孤軍奮闘眼前に現出せる四機と打合をやり、其の一機は火焰を吐きつゝ墜落す。此の時自機の後方より來る約十機の一斉射撃を受け、其機關砲の一弾は遂に愛機の機關部（エンジン）に當り拳大の大穴を穿てり。「エンジン」は遂にハタと停止し滑油、ガソリンらしきものを吹き前方を注視する能はず、下右側氣管の附近及び右側機關部よりは黒煙を吐きつつありたるを以て自爆の決意を爲せり。されど容易に發火させるを以て巧に空中滑走に依り友軍地上部隊戦線上空に到着、二千米附近の層雲に突入敵機の追撃を免がる。されど高度は逐次低下し雲下に出づ。此の時雲下を飛行しありたる敵機約五機の攻撃を受けたり。

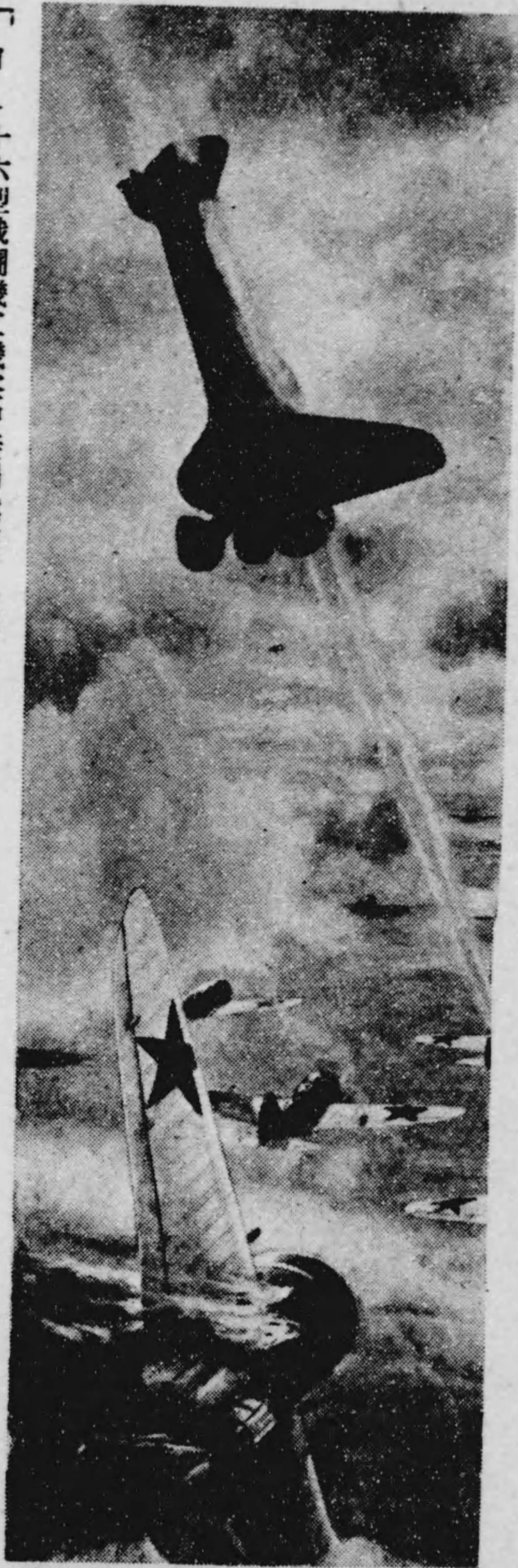
我は既に傷ける飛行機にして詮方なし、されど機先を制すれば苦戦を免がると思ひ、「プロペラ」停止し黒煙を吐き滑油は雨の如く漏出する機首に立向ひたるに天運なる哉、先頭の指揮官機に私の發射せる機關銃弾は命中し「火ダレマ」となつて墜落し行く。他の機はかなはじと逃飛し、全く虎口を脱し友軍戦線先に不時着せり、着陸後點検せるに敵機關砲彈を滑油冷却器に受けたるのみにて他は完全なり。夕刻〇〇機器材を携行し修理す。修理完成と共に再び操縦し〇〇前進地に着陸す。部隊長など「よくもやつて呉れた」と賞せらる。

十四、同 九月二日

國境の哨戒任務に赴く。敵機に遭遇せず、着陸後寫眞を撮る。

「イ」十五、十六型戦闘機 九機撃墜。

「エスパー」中型爆撃機一機地上射撃爆撃せしむ。



「イ」十六型戦闘機二機空中接觸燃墜、敵騎兵（馬共）約三十名（頭）斃す（地上掃射）

愛國第三百廿五號東京鎗物號は今後私共がおあづかりし私が擔當機として塔乗して参りますれば、どうぞ御安心の程を、尙九月二日以後の戦果は又戦闘毎に御通信申し上げます。文章、文字粗雑で御座いますが御判じ讀み下さいます様、本文は實際飾りなき事實であります。防空壕の暗い「ロウソク」の下で認めましたが本記事献納者皆々様御一同に通知され讀んで頂くことが出来れば私の本懐とする所で御座います。……

以上昭和十二年七月十二日以降、同九月二日までの戦闘情況は〇〇部隊の長谷川智在少尉が、献納者の東京鎗物工業組合に寄せたものであり、戦線の勞苦と我が陸の荒鷲の不屈の精神がハッキリと浮び出てるではないか。

この愛國第三百廿五號、東京鑄物號は、東京市本所區太平町一ノ二、東京鑄物工業組合（代表者瀧澤七郎氏）の赤誠溢るゝ組合員が據出して、我が陸軍に獻納したものである。

角力さん獻納機力強く初陣から勝放し

——相撲號と共に奮戦殊勳甲の佐々木准尉惜しくも今はなし——

八手の様な大きな手をパンと合せて「よいしょッ」とし、こを踏んだ。こゝ立川飛行場の中央に設けられた、愛國相撲號の前の土俵では、いま東の横綱双葉山のけんらんたる土俵入りである、拍手が起る。

續いて西の横綱男女の川の土俵入りが行はれた。大日本相撲協會から獻納された愛國相撲號、つまりお角力さんの獻納機の式である。

かうして陸軍大臣や、陸軍關係者と晴れの紋服姿に出席の力士とを交へて、愛國相撲號の命名式は盛大に行はれ、この戦闘機は前線の〇〇部隊に配屬された。

前線〇〇部隊に配屬された相撲號は、昭和十四年四月廿九日、天長の佳節に行はれた南郷空襲に際して、敵大編隊軍

と遭遇して、群がる敵軍の眞只中に突入して、阿修羅の奮戦に實に甘機を撃墜の初陣を樹て「愛國相撲號」はお角力さんの様に強いぞ、とどつと凱歌をあげさせたのであつた。

この日の血戦録を見るとしよう。

南郷附近に集結する敵空軍を殲滅すべく、天長の佳節に行はれた吾が鈴木部隊の壯烈な活躍は誠に血湧き肉躍るの感があるのだ。即ち外村義雄中尉を編隊長とする〇〇機は、昭和十四年四月廿九日天長の佳節のよき日、午前八時五十分〇〇基地を勇躍離陸一路目指す南郷に向つた。やがて南郷東方十キロの空に差しかつた此時、吾が第三編隊長佐々木曹長は、南郷南方山地の稜線上に敵の大編隊群が東方に進んで居るのを目敏くも發見した。敵の大編隊群はソ聯軍の如き多數の戦闘機群である。彈丸の如き早さで、彼我の距離は刻々と狭められて行く、豆粒の様な敵機は瞬間にして、猛禽の様な大きさに敢然と立はだかつて來た。今や瞬時の躊躇も許されない、先づ佐々木曹長機は猛然と群る敵大編隊の中に突入して行つた。この壯烈な攻撃に狼狽せる敵左側の一編隊は戦はずして逃走しようとしたが、吾は敵より高い絶好の有利な態勢を示してゐる。敵編隊軍の眞上に現はれるや、隼の如くあざやかな急降下だつた。佐々木機を先頭に我が全機は敵の一機も残さじとばかり敵機にくつついて行く。豪膽と報國の念に燃ゆる勇士達の前に何條たまるべき、吾が彈丸に火炎を發するもの白煙を吐いて撃墜されて行くもの、忽ちにして六機編隊の半分を失ひ、これでは齒が立たぬと残余の敵は混亂状態に陥り、何とかして吾が集中火線の圏外に逃れんものと徒らに右往左往するばかりだ。しかし敵には更に他の編隊陣があるので、之を監視しなくてはならない、佐々木機は只一機更に上空に舞ひ上つて、一先ず戦

列を離れた。

見れば外村編隊長機始め吾が全機は追撃の手を弛めず追詰め追詰め敢闘してゐる。瞬く間に外村機は二機を射落した。

火達磨となつて落ちて行く敵機を見ながら（隊長殿目覚しいお手柄です）と、佐々木曹長の胸は感激に戦くのだ。かくて敵一編隊は殆んど吾が蹂躪に壊滅し去つたのであつた。

この時三千メートルの上空にある敵の一編隊は、未だこの敗戦に気がつかず呑気さうに東に向かつて飛翔を續けてゐた。が、やがて気がつくや三十六計逃げるにしかずとばかり右に旋回して



* 西方に逃げ去らんとする、逃がしてなるものかと外村隊長機、原田威治軍曹機を始め皇軍全機はこの新しい獲物に襲ひかゝつた。そして忽ち三四機を撃墜した。もう監視の必要のなくなつた佐々木機も再び猛然と戦闘

に加はつた。この時迄外村隊長機が阿修羅の如く荒れ狂つてゐたのを、佐々木曹長ははつきり認めてゐた。壯烈を極めた第二の戦は二十五分間續いた。一機



* 二機と辛くも死線を脱した敵は、列を亂して西方に逸走して行く、尙ほ之の二編隊の外にボツリボツリと御義理の様に地上に舞ひ上るが、はるかに遠く安全圏内を逃げ腰で

飛んでゐるだけだ。最後には本田貞夫曹長機と敵編隊長機との目覚ましい一騎打が演ぜられた。激戦數分間、本田曹長機の神技の前には敵隊長も百計つきてバラシユートで逃げのびんとしたのを、逃がしてなるものかと體當りを食はせた。プロペラは落下傘の綱を切断し哀れ敵の隊長は黒點となつて墜落して行くのだつた。

確實に敵十六、七機を撃墜した稀有の快捷記録である。

戦ひは終つた。かくて定められた地點に集結し基地に歸還せんとしたが待てど待てど外村隊長機と、原田軍曹機は陣列に歸つて來ないのだつた。〇〇機を持つての長途大空襲であり、しかも五十分に互る戦闘に生命の綱と頼む燃料は、刻々と減つて行く、もう寸刻も待てないのだ。外村隊長よ、原田軍曹よ、泣いて吾等は基地に歸る」と訣別し輝く戦勝

のうちに萬斛の涙を吞みつゝ、南鄭の空に別れたのである。

この大相撲號は、双葉山、男女の川を總師とする力士達の、大日本相撲協會から陸軍省に獻納されたものである。

陸の荒鷲佐々木准尉と共に奮戦の辰馬號

——初陣以來國民の赤誠に應へんと阿修羅の働き——

昭和十四年四月三日、西安を爆撃した陸の荒鷲山口部隊〇〇機の掩護に當つた、鈴木(五)部隊の佐々木武曹長は、愛國辰馬號を操縦、僚機と共に爆撃隊を掩護しつゝ、西安上空に飛來し、狼狽した敵の盲滅法なる對空撃射など物ともせず多大の戦果ををさめ、無事〇〇基地に歸還した。

曹長は出征以來幾多の空中戦、空爆に参加奮々たる武功をたてゝゐる荒鷲であつて、今後は國技館の關取衆が、赤心こめて獻納した愛國相撲號を愛機に、北支の大空を舞臺に活躍する事になつた。兩愛機共今回新に同部隊に配屬されたもので、三日の西安空爆は初陣である。かつて愛機の手入をしながら曹長は語つた。

「銃後國民の熱誠 迸る愛國獻納機を愛機とする光榮に浴し、一層任務の重大なるを痛感します。御蔭様で今日迄恙な

く御奉公出来ました。今後も張切つて大いに翔け廻りませう」かう語つたときの元氣な面影も今は見る由もない。

初陣以來「愛國相撲號」を驅つて勝放しの殊勳を樹て、相撲號は、お角力さんの様に力強いと謳はれ、續いて「愛國辰馬號」に乗つては、敵空軍を恐怖させた、我が陸の荒鷲中の猛鷲といはれた、佐々木武准尉(當時曹長)は惜しくも昭和十四年八月廿一日ソ満國境の空中戦闘に於て、壯烈無比の戦死を遂げたのである。

その勳功はあげて數へきれぬものがある。かくてこそ、昭和十五年九月廿五日、畏きあたりの御沙汰により、功五級旭七等の金鷄勳章を授けられ、その身は武人として最高榮譽の「殊勳甲」として發表され、その武功は永劫に輝いた。佐々木准尉は長野縣下伊那郡富草村の出身で、今郷里では嚴父佐々木淳一氏が、故勇士の靈を靜かに守つてゐられる。なほ、愛國辰馬號は、兵庫縣西宮市本町三二、辰馬汽船株式會社、同辰馬本家酒造株式會社の燃える愛國心の一念から、我が陸軍空軍にと獻納されたものである。

天長の佳節を期して行はれた陸の荒鷲の漢中爆撃は壯烈無比なものであり、殊に數倍の敵機を相手に未曾有の大空中戦が行はれた。

漢中は甘肅省の蘭州と、四川省の成都をつなぐ中間の、敵の唯一の飛行基地で、この攻撃の効果は十分にあつたが、惜しくも外村義雄大尉と、原田威治曹長の兩猛鷲を喪つた。

外村大尉は宮城縣西諸郡小林町大字細野一五六の出身、原田曹長は濱松市白羽六九の出身である。

愛國號飛行機並に獻納者一覽表

號數 (名稱)	機種	住所	獻納者
愛國第一號	ユンカー		
愛國第二號	ドルニエ・トルクル		學藝技術獎勵金
愛國第三號 (小布施號)	戰鬥機	東京市日本橋區	學藝技術獎勵金 小布施新三郎
愛國第四號 (同)	輕爆擊機		同
愛國第五號 (同)	偵察機		同
愛國第六號 (日毛號)	同		同
愛國第七號 (群馬縣民號)	戰鬥機	神戶	日本毛織株式會社役員並從業員 群馬縣民
愛國第八號 (川喜田號)	戰鬥機		群馬縣民
愛國第九號 (河野號)	戰鬥機		三重縣 川喜田久太夫
愛國第十號 (朝鮮號)	偵察機		東京 河野 美
愛國第十一號 (長岡號)	偵察機		朝鮮 朝鮮官民
愛國第十二號 (立山號)	輕爆擊機	新潟縣長岡市役所氣付	長岡市民
愛國第十三號 (石川縣民)	戰鬥機	富山縣應氣付	富山縣民
愛國第十四號 (若越號)	同	石川縣應氣付	石川縣民
愛國第十五號 (官城縣民號)	輕爆擊機	福井縣應氣付	福井縣民
愛國第十六號 (同)	偵察機	官城縣應氣付	官城縣民

愛國第十七號 (岡山號)	戰鬥機		同
愛國第十八號 (第十師團山陰號)	同	第十師團管下兵庫、鳥取、岡山、島根縣民	同
愛國第十九號 (兵庫縣民號)	輕爆擊機	兵庫縣應氣付	兵庫縣民
愛國第二十號 (朝鮮號)	戰鬥機		朝鮮 朝鮮官民
愛國第二十一號 (同)	輕爆擊機		朝鮮 朝鮮官民
愛國第二十二號 (帝生號)	輕爆擊機		帝國生命保險株式會社並從業員關係者
愛國第二十三號 (中學生號)	輕爆擊機		全國中學生
愛國第二十四號	戰鬥機		三井鑛山株式會社並從業員
愛國第二十五號 (臺灣號)	輕爆擊機	臺灣總督府	臺灣全島民
愛國第二十六號 (同)	同		同
愛國第二十七號 (千葉縣民號)	戰鬥機	千葉縣應氣付	千葉縣民
愛國第二十八號 (德島縣民號)	輕爆擊機	德島縣應氣付	德島縣民
愛國第二十九號 (北海道民號)	戰鬥機	北海道應氣付	北海道民
愛國第三十號 (女學生號)	偵察機		全國女學生
愛國第三十一號 (兒童號)	輕爆擊機		全國小學校、幼稚園兒童
愛國第三十二號 (廣島號)	同		同
愛國第三十三號 (福山號)	戰鬥機		第五師團管下廣島、島根、山口縣民
愛國第三十四號 (濱田號)	戰鬥機		同
愛國第三十五號 (防長號)	輕爆擊機		同

- 愛國第卅六號 (香川縣民號) 輕爆擊機 同
- 愛國第卅七號 (小布施號) 戰鬥機 香川縣民
- 愛國第卅八號 (京都號) 戰鬥機 東京市日本橋區 小布施新三郎
- 愛國第卅九號 (信濃號) 戰鬥機 京都市役所氣付 京都市民
- 愛國第四十號 (防長號) 患者輸送機 長野縣氣付 長野縣民
- 愛國第四十一號 (愛媛縣民號) 戰鬥機 第五師團管下廣島、島根、山口縣民
- 愛國第四十二號 欠番 愛媛縣氣付 愛媛縣民
- 愛國第四十三號 (朝鮮號) 戰鬥機 朝鮮總督府 朝鮮官民
- 愛國第四十四號 欠番
- 愛國第四十五號 (鹿兒島縣民號) 戰鬥機 鹿兒島縣氣付 鹿兒島縣民

- 愛國第四十六號 (福島縣民號) 輕爆擊機 福島縣氣付 福島縣民
- 愛國第四十七號 (大分縣民號) 戰鬥機 大分縣氣付 大分縣民
- 愛國第四十八號 (佐賀縣民號) 戰鬥機 佐賀縣氣付 佐賀縣民
- 愛國第四十九號 (愛知縣民號) 偵察機 愛知縣氣付 愛知縣民
- 愛國第五十號 (熊本縣民號) 戰鬥機 熊本縣氣付 熊本縣民
- 愛國第五十一號 (新潟縣民號) 戰鬥機 新潟縣氣付 新潟縣民
- 愛國第五十二號 (同) 同
- 愛國第五十三號 (大和號) 戰鬥機 奈良縣氣付 奈良縣民
- 愛國第五十四號 (岐阜號) 戰鬥機 岐阜縣氣付 岐阜縣民
- 愛國第五十五號 (秋田縣民號) 戰鬥機 秋田縣氣付 秋田縣民

- 愛國第五十六號 (新潟消防號) 偵察機 秋田縣氣付 秋田縣民
- 愛國第五十七號 (新潟學生號) 偵察機 新潟消防組
- 愛國第五十八號 (海軍小倉支部) 戰鬥機 新潟縣學生生徒
- 愛國第五十九號 (土佐號) 輕爆擊機 帝國在郷軍人會小倉支部
- 愛國第六十號 (金鷄號) 戰鬥機 高知縣氣付 高知縣民
- 愛國第六十一號 (和歌山縣民號) 戰鬥機 全國殊勳者
- 愛國第六十二號 (滿洲號) 戰鬥機 和歌山縣氣付 和歌山縣民
- 愛國第六十三號 (同) 同 滿洲在住官民一同
- 自愛國第六十四號 (滿洲號) 小型通信機 同
- 至愛國第六十八號 滿洲在住官民一同

- 愛國第六十九號 (富國號) 戰鬥機 富國徵兵保險相互會社並従業員
- 愛國第七十號 (栃木縣民號) 輕爆擊機 栃木縣氣付 栃木縣民
- 愛國第七十一號 (埼玉縣民號) 輕爆擊機 埼玉縣氣付 埼玉縣民
- 愛國第七十二號 (茨城縣民號) 輕爆擊機 茨城縣氣付 茨城縣民
- 愛國第七十三號 (東京瓦斯號) 戰鬥機 東京市 東京瓦斯兵器獻納會
- 愛國第七十四號 (山梨縣民號) 戰鬥機 山梨縣氣付 山梨縣民
- 愛國第七十五號 (日向號) 偵察機 宮崎縣氣付 宮崎縣民
- 愛國第七十六號 (山形縣民號) 輕爆擊機 山形縣氣付 山形縣民
- 愛國第七十七號 (三越號) 戰鬥機 東京市日本橋區室町 株式會社三越重役並従業員
- 愛國第七十八號 (日清紡績號) 戰鬥機

愛國第七十九號(勞働號) 戰闘機 東京市 日清紡績株式會社並従業員

愛國第八十號(生保證券號) 偵察機 國防獻金勞働協會

愛國第八十一號 生保證券株式會社

愛國第八十二號 オートジャイロ

愛國第八十三號(東電號) 戰闘機 學藝技術獎勵金

愛國第八十四號(田村號) 戰闘機 東京市麹町區内幸町 東京電燈株式會社並従業員

愛國第八十五號(全國民號) 戰闘機 大阪府 田村駒治郎

愛國第八十六號(產業協働第一號) 戰闘機 全國愛國號飛行機獻納團體及獻納者

愛國第八十七號(佛立號) 戰闘機 大阪産業關係者その他有志

愛國第八十八號(通運號) 戰闘機 大阪府 本門佛立教會

愛國第八十九號(第二千葉縣民號) 戰闘機 東京市 國際通運株式會社同代理店 同取引店及以上従業員有志

愛國第九十號(川村號) 偵察機 千葉縣廳氣付 千葉縣民

愛國第九十一號(橫濱市號) 戰闘機 東京市京橋區銀座 川村德太郎

愛國第九十二號(福岡市號) 戰闘機 橫濱市役所氣付 橫濱市民

愛國第九十三號(大阪藥種製藥號) フオカ一患者輸送機 大阪府 大阪藥種卸仲買商組合

愛國第九十四號(不動貯金號) 單輕爆擊機 株式會社不動貯蓄銀行頭取 村野元治郎

愛國第九十五號(蜂須賀號) プスモス連絡機 大阪府 日本產業協働團代表 縣 忍

愛國第九十六號(通照號) 單輕爆擊機 東京市 侯爵 蜂須賀 正

愛國第九十七號(臺灣學校號) 單輕爆擊機 大阪府 密教護國團

愛國第九十八號(安川勤勞號) 單輕爆擊機 臺灣學校職員生徒兒童代表 安武直夫

愛國第九十九號(新潟縣民號) 單輕爆擊機 新潟縣民代表 千葉 了

愛國第一百號(文明琦號) 偵察機 臺中州青果同業組合 代表 中田榮次郎

愛國第九十九號(川崎市號) 偵察機 川崎市役所氣付 川崎市民

愛國第一百號(製糖號) 輕爆擊機 臺灣製糖外十四會社

愛國第一百零一號(同) 同

愛國第一百零二號(同) 同

愛國第一百零三號(同) 同

愛國第一百零四號(同) 同

愛國第一百零五號(同) 同

愛國第一百零六號(陸軍軍醫團號) 患者輸送機 陸軍軍醫團

愛國第一百零七號(滋賀縣民號) 輕爆擊機 滋賀縣民

愛國第一百零八號(國民號) フエチヤイルド社製飛行機 東京市京橋區銀座 國民新聞社並購讀者

愛國第一百零九號(日本特殊鋼號) 單輕爆擊機 日本特殊鋼合資會社

愛國第一百一十號(明治生命號) 單輕爆擊機 明治生命保險株式會社

愛國第九十八號(九州理髮號) 偵察機 同

愛國第九十九號(同) フオクス・モス患者輸送機

愛國第一百號(同) 同

愛國第一百零一號(同) 同

愛國第一百零二號(同) 同

愛國第一百零三號(同) 同

愛國第一百零四號(同) 同

愛國第一百零五號(同) 同

愛國第一百零六號(同) 同

愛國第一百零七號(同) 同

愛國第一百零八號(同) 同

愛國第一百零九號(同) 同

愛國第一百一十號(同) 同

愛國第一百一十一號(同) 同

愛國第一百一十二號(同) 同

愛國第一百一十三號(同) 同

愛國第一百一十四號(同) 同

愛國第一百一十五號(同) 同

愛國第一百一十六號(同) 同

愛國第一百一十七號(同) 同

愛國第一百一十八號(同) 同

愛國第一百一十九號(同) 同

愛國第一百二十號(同) 同

朝鮮 文 明 琦

愛國第百廿一號 (東京號) 偵察機

東京市 東京市聯合防護團 代表 牛塚虎太郎

愛國第百廿二號 (臺灣保甲號) 双輕爆擊機

臺灣 保甲及壯丁團

代表臺灣總督府教務局長 石垣倉治

愛國第百廿三號 (臺灣壯丁團) 同

同 同

愛國第百廿四號

(酒井號) 小型患者輸送機

愛國第百廿五號 故酒井よね遺言執行者 安藤徳太郎

愛國第百廿六號 (片倉號) 輸送機

東京市 片倉同族 代表 片倉兼太郎

愛國第百廿七號 (カトリック號) 患者輸送機

長崎市カトリック兵器獻納會 代表 田川源造

愛國第百廿八號 (萬俵其他)

愛國第百廿九號 (萬俵) 輸送機

學藝技術獎勵金

愛國第百卅號 (宮澤號) 戰鬥機

大阪市 官澤松三郎

愛國第百卅一號

高速連絡機

愛國第百卅二號

學藝技術獎勵金

愛國第百卅三號 (京城第一號) 小型連絡機

朝鮮 金溶禹、李桐玉、林具柏、曹來學

愛國第百卅四號 (酒造組合號) 同

代表京城府尹 甘庶義邦

愛國第百卅五號 (京城第二號) 同

東京市 酒造組合中央會 代表 中道邦之助

朝鮮 閔一族、李錫九、元胤洙

愛國第百卅六號 (少年赤十字號) 患者輸送機

代表京城府尹 甘庶義郎

日本赤十字社少年赤十字團代表 公爵 徳川家達

自愛國第百卅七號

至愛國第百四十號 (小布施號) 戰鬥機

愛國第百四十一號 (小布施號) 偵察機

東京市 小布施新三郎

愛國第百四十二號

同 同

愛國第百四十三號 (王子製紙號) 偵察機

東京市麴町區日比谷三信ビル 王子製紙株式會社

愛國第百四十四號 (帝國製麻號) 戰鬥機

東京市日本橋區 帝國製麻株式會社

愛國第百四十五號 (神戸製鋼號) 偵察機

神戸 株式會社神戸製鋼所 代表 田宮嘉右衛門

愛國第百四十六號 (大日本號) 偵察機

全 國 民

愛國第百四十七號 (吉原號) 患者輸送機

東京新吉原貨座敷組合中

愛國第百四十八號 (大日本號) 戰鬥機

全 國 民 三 越 外

愛國第百四十九號 (日銀號) 戰鬥機

日本銀行總裁外重役及行員その他従業員一同

自愛國第百五十號 (全日本號) 戰鬥機

代表 結城豊太郎

同 同

至愛國第百五十九號 (全日本號) 戰鬥機

東京市麴町區有樂町朝日新聞社 代表 上野精一

自愛國第百六十號

至愛國第百六十九號 (全日本號) 輕爆擊機

同 同

愛國第百七十號 (全日本號) 司令部用偵察機

同 同

自愛國第百七十一號 (全日本號)

至愛國第百七十九號

同 同

愛國第百八十號 (京城第三崔昌學號) 小型連絡機

朝鮮 崔 昌 學

愛國第百八十一號 (京城第四共濟號) 同

朝鮮 池田與三郎外二名 代表 池田與三郎

愛國第百八十二號 (朝鮮開城號) 同

朝鮮 開城府民 代表 權 重 植

愛國第百八十三號 (朝鮮慶北號) 戰鬥機

愛國第百八十四號 (朝鮮慶北號) 戰鬥機

朝鮮 慶尙北道民有志 代表 上 織 基

- 愛國第百八十五號 (朝鮮全北號) 双輕爆擊機
- 愛國第百八十六號 戰團機
- 朝鮮 全羅北道民有志 代表知事 孫 永 穆
- 愛國第百八十七號 (朝鮮忠北號) 戰團機
- 朝鮮 忠清北道々民有志 代表 開 泳 攸
- 愛國第百八十八號 (朝鮮黃海號) 戰團機
- 朝鮮 黃海道民有志 代表 善 弼 成
- 愛國第百八十九號
- 愛國第百九十號 (日本鋼管號) 偵察機
- 愛國第百九十一號
- 東京市麴町區丸ノ内 日本鋼管株式會社 代表 白石元次郎
- 愛國第百九十二號 戰團機
- 愛國第百九十三號 (日魯太平洋號) 戰團機
- 愛國第百九十四號 偵察機
- 日魯漁業株式會社 代表 窪 田 四 郎
- 太平洋漁業株式會社 代表 平塚常次郎
- 愛國第百九十五號 (丸水號) 偵察機
- 株式會社丸水渡邊商店 代表 渡邊善十郎
- 愛國第百九十六號 (西日本號) 同
- 福岡市 福岡日日新聞社

- 愛國第百九十七號 (東京市教育團號) 同
- 東京市役所氣付 東京市教育團 代表 小橋 一 太
- 愛國第百九十八號 (前川號) 戰團機
- 北海道沙流郡門別村門別町二二〇 前川 外 吉
- 愛國第百九十九號 (産組香川號) 偵察機
- 高松市 香川縣産業組合員一同
- 代表産業組合香川縣支部長 藤岡長敏
- 愛國第百二十號 (天津號) プスモス
- 天津 天津在留邦人 代表 森川 照 太
- 愛國第百二十一號 (村上號) 戰團機
- 東京市 合資會社村上喜代次商店 代表 村上喜代次
- 愛國第百二十二號
- 愛國第百二十三號 (大日本號) 患者輸送機
- 愛國第百二十四號
- 愛國第百二十五號 (神戸號) 戰團機
- 神戶聯隊區管内 依岡榮二外五九三名
- 愛國第百二十六號 (ダバオ號) 同
- 比島 ダバオ日本人會

- 愛國第百二十七號 (神戸絹業號) 同
- 神戶 神戸絹業團 代表 藤井松四郎
- 愛國第百二十八號 (樺太號) 偵察機
- 樺太廳樺太島民代表 今村 武 志
- 愛國第百二十九號 (福岡産業組合號) 戰團機
- 産業組合中央會福岡縣支部 代表 畑山田男美
- 愛國第百三十號 (倉持號) 同
- 東京市 株式會社倉持商店 代表 倉持長吉
- 愛國第百三十一號 (大日本號) 重爆擊機
- 全 國 民
- 愛國第百三十二號 (阿蘇號) 偵察機
- 熊本縣廳 熊本縣愛國阿蘇號獻納委員會 代表 野田 三 藏
- 愛國第百三十三號 (岩手號) 戰團機
- 岩手縣廳 岩手縣民 代表知事 雪澤千代吉
- 愛國第百三十四號 (朝鮮晋州號) 小型連絡機
- 朝鮮 慶昌南道晋州郡愛國號飛行機獻納會
- 愛國第百三十五號 (松坂屋號) 戰團機
- 東京上野 松坂屋及従業員一同 代表 伊藤松之助

- 愛國第百三十六號 (全國青年學校號) 同
- 全國青年學校職員生徒 代表 田代勝之助
- 愛國第百三十七號 (防長號) 戰團機
- 愛國第百三十八號 (宇部號) 戰團機
- 山口聯隊區管内有志
- 愛國第百三十九號 (朝鮮京畿號) 戰團機
- 朝鮮 京畿道民一同 代表知事 甘庶義邦
- 愛國第百四十號 (同) 小型連絡機
- 同 同
- 愛國第百四十二號 (朝鮮江原號) 戰團機
- 朝鮮 江原道民有志
- 愛國第百四十三號 (日本醫師會號) 患者輸送機
- 東京 日本醫師會 代表 北島多一
- 愛國第百四十四號 (全日本號) 戰團機
- 朝日新聞社
- 愛國第百四十五號 (信州養蠶號) 戰團機

- 長野縣 長野縣養蠶組合聯合會 代表 福島喜男
- 愛國第二百四十一號 (女學生號) 患者輸送機
全國女子職業學校長協會
全國女子專門學校長協會
全國高等女學校長協會
- 愛國第二百四十二號 (荒木號) 戰團機
大阪市東區北久太郎町
故荒木ハマシ遺言執行者 芦田 修
芦田 金次
- 愛國第二百四十三號 (上海號) 戰團機
上海 上海居留民 代表 民國團長 甘濃益二郎
- 愛國第二百四十四號 (中央電氣號) 同
新潟縣 中央電氣株式會社重役役員從業員一同
- 愛國第二百四十五號 (青年團第一號) 同
代表 今井伍助
大日本青年團 代表 香坂昌康
- 愛國第二百四十六號 (中學生號) 戰團機
全國中學校長協會 代表 西村房太郎
- 愛國第二百四十七號 (吉田號) 同
大阪市南區大寶寺中之町四三 株式會社吉田定七商店

- 愛國第二百四十八號 (大日本報德號) 患者輸送機
靜岡縣小笠那掛川町 大日本報德社
社長 一木喜德郎
- 愛國第二百四十九號 (朝鮮號) 同
朝鮮 國防飛行機獻納會 代表 全寬 鎭
- 愛國第二百五十號 (朝鮮咸北號) 戰團機
朝鮮 愛國號機咸北號獻納期成會
- 愛國第二百五十一號 (朝鮮水原號) 小型連絡機
朝鮮 京畿水原郡民一同
- 愛國第二百五十二號
朝鮮 咸嶺南道民一同
- 愛國第二百五十三號 (朝鮮咸南號) 戰團機
朝鮮 咸嶺南道民一同
- 愛國第二百五十四號 (臺中號) 戰團機
臺灣 臺中州民有志時局懇談會 代表 林烈堂
- 愛國第二百五十五號 (大甲號) 同
臺灣 大甲郡下本島人有志團體 代表 橫山竹男
- 愛國第二百五十六號 (朝鮮蠶業號) 同
朝鮮 朝鮮蠶業會、朝鮮各種、組合中央會
朝鮮製糸協會

- 愛國第二百五十七號 (朝鮮宜川號) 小型連絡機
朝鮮 平安道宜川郡宜川愛國會 代表 李泳 養
- 愛國第二百五十八號
- 愛國第二百五十九號 (滿洲協和號) DF飛行機
愛國第二百六十號
滿洲國新京 滿洲帝國協和會
代表 中央本部長 千龍 透
- 愛國第二百六十一號 (滿鐵社員) 戰團機
關東州大連東公園町 滿鐵社員會
代表 古山勝夫
- 愛國第二百六十二號 (北千島號) 偵察機
函館市 北千島水產會 代表 坂本作平、山内大次郎
- 愛國第二百六十三號 (愛媛第二號) 同
愛媛縣廳 愛媛縣民 代表 縣知事 古川靜夫
- 愛國第二百六十四號 (青年團第二號) 重爆擊機
大日本聯合青年團 代表 香坂昌康
- 愛國第二百六十五號 (鮮鐵號) 戰團機
京城 朝鮮總督府鐵道局 代表 吉田 治
- 愛國第二百六十六號 (朝鮮米穀號) 同
朝鮮京城大門通四丁目六 朝鮮穀物協會

- 愛國第二百六十七號 (朝鮮大同社號) 小型連絡機
朝鮮忠清南道太田府町二二六 朝鮮大同社
代表 各村久太郎
- 愛國第二百六十八號 (日本看護婦第一號)
愛國第二百六十九號 (日本看護婦第二號)
患者輸送機
東京市澁谷區宮代町 日本赤十字社病院內
大日本看護婦團 代表 稻田ユキ
- 愛國第二百七十號 (朝鮮平北號) 戰團機
朝鮮 平北道民 代表 多田榮吉
- 愛國第二百七十一號 (赤誠號) 小型連絡機
全國刑務所收容者一同 代表 豐多摩刑務所長
- 愛國第二百七十二號 (北米南加同胞號) 同
南加同胞愛國機獻納期成會 代表 武重勇作
- 愛國第二百七十三號 (野田醬油號) 戰團機
千葉縣東葛飾郡野田町 野田醬油株式會社及合資會社
千秋社 代表 茂木七左衛門
- 愛國第二百七十四號 (北門號) 同
臺灣臺南州北門郡役所內 北門郡民風作興委員會

- 愛國第二百七十五號 (新勝號) 同 代表 白仁實一
- 千葉縣成田町 成田山新勝寺 代表 荒井照定
- 愛國第二百七十六號 (慶南銃後至誠會號) 小型連絡機 代表 荒井照定
- 朝鮮慶尙南道 銃後至誠會 代表 鄭淳賢
- 愛國第二百七十七號 (慶南官公署團體職員號) 同 代表 鄭淳賢
- 朝鮮慶尙南道 官公署團體職員一同
- 愛國第二百七十八號 戰團機 代表 慶尙南道知事 阿部壬
- 愛國第二百七十九號 小型連絡機 代表 慶尙南道知事 阿部壬
- 朝鮮平南道 平南國防資財獻納期成會 代表 慶尙南道知事 阿部壬
- 愛國第二百八十號 (日本染料號) 小型連絡機 代表 會長 上内彦策
- 大阪市此花區春日出町二七八ノ三 日本染料製造株式會社 代表 社長 稻畑勝太郎
- 愛國第二百八十一號 (朝鮮忠南號) 戰團機 代表 社長 稻畑勝太郎
- 朝鮮忠清南道 愛國機獻納期成會 代表 社長 稻畑勝太郎
- 愛國第二百八十二號 (岩田號) 小型連絡機 代表 知事 鄭橋源

- 大阪市東區北久太郎町三ノ二六 岩田常商店 社長 岩田常右衛門
- 愛國第二百八十三號 (眞宗高田派本山號) 患者輸送機 三重縣阿蘇郡一身田町 眞宗高田派本山雲修寺 代表 常井喜猷
- 愛國第二百八十四號 (間島號) 偵察機 滿洲國關東省延吉井郡延吉街 關東省在任鮮人有志一同 代表 彌定龍
- 愛國第二百八十五號 (辰馬號) 戰團機 西宮市本町三二 辰馬汽船株式會社
- 西宮市本町三二 辰馬本家酒造株式會社
- 西宮市鞍掛町一二一 辰馬本家酒造株式會社
- 愛國第二百八十六號 (日本皮革號) 直協機 東京市足立區千住澤町一六ノ一 日本皮革株式會社 代表 伊藤琢磨
- 愛國第二百八十七號 (特殊製鋼號) 戰團機 東京市蒲田區南六郷二ノ三四 特殊製鋼株式會社 代表 石原米太郎
- 愛國第二百八十八號 (橫濱壽號) 小型連絡機 橫濱市中區壽警察署管内 國民精神總動員支部實行委

- 員會 代表 小磯國藏
- 愛國第二百八十九號 (鑛業報國號) 戰團機 福岡 福岡鑛山監督局員一同沖繩、山口縣九州各縣外
- 愛國第二百九十號 (同) 同 代表 堀義臣
- 石岩山事業主及從業員 福岡鑛山監督局長
- 愛國第二百九十一號 代表 堀義臣
- 愛國第二百九十二號 (鯛生金山號) 戰團機 東京市麴町區丸ノ内二ノ二 鯛生金山株式會社 代表 原清明
- 愛國第二百九十三號 (雄飛號) 戰團機 大阪市東區今橋五ノ一四 株式會社安宅商會 代表 安宅彌吉
- 愛國第二百九十四號 (野村號) 司令部偵察機 大阪市東區備後町二ノ二一 株式會社野村銀行 代表 野村元五郎
- 愛國第二百九十五號 (杵島號) 輕爆擊機 佐賀縣白山町 杵島鑛業株式會社 代表 高取盛、高取九郎

- 自愛國第二百九十六號 (全日本號) 戰團機 至愛國第三百號 朝日新聞社
- 愛國第三百一號 (山甚號) 輕爆擊機 福井縣南條郡武生町 山甚商店 代表 山本和助
- 自愛國第三百二號 (西日本號) 戰團機 至愛國第三百五號 福岡市 福島日日新聞社
- 愛國第三百六號 (高島屋號) 戰團機 京都市烏丸稻原上ル 株式會社高島屋 代表 飯田新七
- 愛國第三百七號 (北日本汽船號) 戰團機 東京市麴町區內幸町大阪ビル 北日本汽船株式會社 代表 野村治一良
- 愛國第三百八號 (中村汽船號) 戰團機 神戸市神戶區明石町三二 中村汽船株式會社 代表 中村精七郎
- 愛國第三百九號 (藤澤號) 戰團機 大阪市東區道修町二丁目 株式會社藤澤友吉商店

愛國第三百十號 (帶谷號) 戰團機

代表 藤澤友吉

大阪府泉南郡貝塚町近本一〇二六 株式會社帶谷商店

代表社長 帶谷吉次郎

愛國第三百十一號 (福澤汽船號) 偵察機

神戸市神戸區明石町 福澤汽船株式會社

代表社長 橋本辰次郎

愛國第三百十二號 (東洋拓植號) 輕爆擊機

東京市麴町區內幸町一ノ一 東洋拓植株式會社

總裁 安川雄之助

愛國第三百十三號 (相撲號) 戰團機

東京市麴町區有樂町二丁目 大日本相撲愛國獻納會

愛國第三百十四號 (將校婦人號) 患者輸送機

東京市牛込區若松町一一 陸海軍將校婦人會

代表 黒木百子

自愛國第三百十五號

(貝島號) 戰團機

至愛國第三百十八號 下關市唐戸貝島炭鑛株式會社 代表 貝島太市

愛國第三百十九號 (鈴木石炭號) 戰團機

名古屋市熱田町池内町 合資會社鈴木石炭商店

代表 鈴木新太郎 渡邊耕二

愛國第三百廿號 (在祕露同胞號) 戰團機

祕露 祕露日本人會聯盟

愛國第三百廿一號 (市田號) 偵察機

京都市下京區室町通佛光寺上ル 株式會社市田商店

代表 市田彌三郎

愛國第三百廿二號 (三谷伸銅號) 戰團機

京都市下京區京坂國道十條南入ル 三谷伸銅株式會社

代表 三谷與三郎

愛國第三百廿三號 (河合號) 戰團機

東京市日本橋區本町四 株式會社河合佐兵衛商店

代表社長 河合佐兵衛

愛國第三百廿四號 (大阪合同號) 戰團機

大阪市北區北久寶寺町一丁目 大阪合同株式會社

代表社長 井村健次郎

愛國第三百廿五號 (東京鑄物號) 同

東京市本所區大平町一ノ二八 東京鑄物工業組合

代表理事長 瀧澤七郎

愛國第三百廿六號 (大日本毛布號) 同

大阪府泉北郡大津町下條 外見亮助外八十九名

愛國第三百廿七號 (中野號) 輕爆擊機

大阪市 中野常助

愛國第三百廿八號 (全國養鶏號) 戰團機

東京帝國大學農學部畜產學教室內 養鶏報國聯盟

代表理事長 石崎芳吉

愛國第三百廿九號 (臺南州職員報國會號) 同

臺灣臺南州 臺南州關係報國會

代表知事 川村直岡

愛國第三百卅號 (東京市電號) 戰團機

東京市麴町區有樂町一ノ一二 東京市電氣局產業報國會

代表 平山泰

愛國第三百卅一號 (航空計器號) 戰團機

川崎市木月二、二〇〇 東京航空計器株式會社

外航空計器十三社 會長 和田嘉衛

自愛國第三百卅二號 (大日本號) 輕爆擊機

至愛國第三百五十八號 全國民

自愛國第三百五十九號 (大日本號) 中型輸送機

至愛國第三百七十三號 (大日本號) 中型輸送機

全國民

愛國第三百七十四號 (大日本號) 偵察機

全國民

愛國第三百七十五號 (大阪鐵工號) 戰團機

大阪市此花區櫻島南之町一七 株式會社大阪鐵工所

代表社長 六角三郎

愛國第三百七十六號

(東京あかがね號) 戰團機

東京市日本橋區小傳馬町二ノ九 東京真鍮銅問屋組合

組合長 三崎善次郎

愛國第三百七十八號 (日本油脂號) 戰團機

東京市芝區田村町一ノ二 日本油脂株式會社

代表社長 二神駿吉

愛國第三百七十九號 (廣海號) 戰團機

大阪市西區江ノ子島東ノ町二七 廣海商事株式會社

代表社長 廣海二三郎

愛國第三百八十號 (川口鑄物號) 戰團機

埼玉縣川口市 川口鑄物工業組合

愛國第三百八十一號 代表理事長 古屋三吉
(三越號) 戦闘機
愛國第三百八十二號 株式會社三越

東京市日本橋區室町 株式會社三越
愛國第三百八十三號 (鴛津除織號) 戦闘機
靜岡縣濱名郡鷲津町鷲津七七五 鴛津紡績株式會社
代表專務 小林儀一郎

愛國第三百八十四號 (祇園國婦號) 戦闘機

大日本國防婦人會京都祇園分會 代表 杉浦キミ

愛國第三百八十五號 (松屋號) 戦闘機

東京市京橋區銀座 松屋吳服店 代表 古屋徳兵衛

自愛國第三百八十六號

至愛國第三百八十八號 (大陸號) 戦闘機

上海西華德路二八八號

大陸新聞社

愛國第三百八十九號 (東京藝華號) 戦闘機

東京市京橋區京橋三ノ一 全國藝妓屋同盟會

東京支部聯合會

代表理事長 渡邊平次郎

愛國第三百九十號 (西日本號) 戦闘機

福岡市渡邊町六丁目

福岡日日新聞社

愛國第三百九十一號 (山甚第二號) 輕爆擊機

福井縣南條郡武生町浪岩 山甚商店

代表 山本和助

愛國第三百九十二號 (銃器第一號) 戦闘機

愛國第三百九十三號 (銃器第二號) 戦闘機

小倉市陸軍造兵廠小倉工廠銃器製造所

代表 吉田智準

愛國第三百九十四號

愛國第三百九十五號 (鐵屑統製號) 戦闘機

愛國第三百九十六號

東京市京橋區京橋二ノ八京橋ビル 日本鐵屑統制株式會社並同社役員従業員一同 代表社長 保倉熊三郎

愛國第三百九十七號

愛國第三百九十八號 (今津號) 戦闘機

大連市四通五 今津七郎

愛國第三百九十九號 (全滿映畫號) 患者輸送機

新京特別市豐樂路四二 豐樂劇場內全滿映畫常務會聯盟

代表理事長 佐渡長太郎

愛國第四百號 (西松組號) 戦闘機

東京市麴町區丸ノ内二ノ六、八重洲ビル

株式會社西松組 代表社長 林 米七

愛國第四百一號 (和歌山莫大小號) 戦闘機

和歌山市九番町四

和歌山莫大小生地工業組合

愛國第四百二號

(高岡組號) 戦闘機

大連市山縣通五〇 株式會社高岡組

愛國第四百四號

(岩村號) 戦闘機

愛國第四百五號

朝鮮咸鏡北道會寧郡會寧邑一洞 岩村長市

愛國第四百六號 (北日本汽船號) 戦闘機

東京市麴町區內幸町大阪ビル 北日本汽船株式會社

愛國第四百七號

(ブラジル同胞號) 戦闘機

愛國第四百八號

ブラジル 在ブラジル中央日本人會 代表會長 明德梅吉

愛國第四百九號

(精工舎) 戦闘機

愛國第四百十號

愛國第四百十一號 (女教員號) 戦闘機

東京市神田區一ツ橋二ノ九ノ七 帝國教育會內

帝國小學校聯合女教員會 代表 木内キヨウ

愛國第四百十二號

愛國第四百十三號 (山仙號) 戦闘機

福井縣今立郡中河村中野 山田仙之助

代表 帶谷吉次郎

愛國第四百十四號 (宇都宮製作所號) 戦闘機

愛國第四百十五號 (帶谷第二號) 戦闘機

愛國第四百十六號 (酒井忠號) 戦闘機

愛國第四百十七號 (竹村綿業) 戦闘機

愛國第四百十八號 (同) 同

大阪市東區南本町一丁目 竹村綿業株式會社

代表社長 服部玄三

株式會社服部時計店

東京市京橋區銀座 株式會社服部時計店

代表社長 服部玄三

愛國第四百十九號 (宇都宮製作所號) 戦闘機

東京市品川區東大崎二ノ三四九

合名會社宇都宮製作所 代表 宇都宮徳太郎

愛國第四百十五號 (帶谷第二號) 戦闘機

愛國第四百十六號 (酒井忠號) 戦闘機

愛國第四百十七號 (竹村綿業) 戦闘機

愛國第四百十八號 (同) 同

大阪市東區南本町一丁目 竹村綿業株式會社

代表 帶谷吉次郎

酒井商事株式會社

神戶市神戶區明石町

愛國第四百十七號 (竹村綿業) 戦闘機

愛國第四百十八號 (同) 同

大阪市東區南本町一丁目 竹村綿業株式會社

代表 帶谷吉次郎

酒井商事株式會社

神戶市神戶區明石町

愛國第四百十七號 (竹村綿業) 戦闘機

愛國第四百十八號 (同) 同

大阪市東區南本町一丁目 竹村綿業株式會社

代表 帶谷吉次郎

酒井商事株式會社

神戶市神戶區明石町

愛國第四百十七號 (竹村綿業) 戦闘機

愛國第四百十八號 (同) 同

大阪市東區南本町一丁目 竹村綿業株式會社

代表 帶谷吉次郎

酒井商事株式會社

神戶市神戶區明石町

愛國第四百十七號 (竹村綿業) 戦闘機

愛國第四百十八號 (同) 同

大阪市東區南本町一丁目 竹村綿業株式會社

代表 帶谷吉次郎

愛國第四百十九號 (中村號) 戰團機

大阪府泉南郡熊取村大字紺屋 中村綿布株式會社

代表社長 中村彌次郎

愛國第四百廿號 (小西六號) 偵察機

東京市日本橋區室町二ノ二ノ一〇 株式會社小西六

社長 杉浦六右衛門

愛國第四百廿一號

(中村號) 戰團機

大連市日吉町一 中村宗二郎

愛國第四百廿三號 (工業組合第一號)

愛國第四百廿四號 (工業組合第二號) 戰團機

愛國第四百廿五號 (工業組合第三號)

東京市日本橋區兜町東株ビル 工業組合中央會内

工業組合愛國機獻納實行委員會

代表委員長 鈴木嶋吉

愛國第四百廿六號 (市田號) 戰團機

京都市下京區室町通佛光寺上ル白樂町五二二

株式會社市田商店 代表 市田彌三郎

愛國第四百廿七號 (帝國染料製造號) 戰團機

大阪市旭區蒲生町旭工業會 代表會長 中辻正信

愛國第四百廿八號 (帝國足袋號) 戰團機

岡山縣兒島郡入江町大字大崎一二一三

帝國足袋株式會社 代表專務 三宅保正

愛國第四百廿九號 (大日本號) 戰團機

東京市品川區大井鹿島三、一三一 吉村三彌外八十二名

愛國第四百卅號 (アサヒトノボ號) 戰團機

愛國第四百卅一號 (澤田號) 戰團機

大連市神田町三三 澤田保嘉次郎

愛國第四百卅二號 (北電號) 戰團機

北京西城西長安街 華北電信電話株式會社日華社宅

代表 山根貞一

愛國第四百卅三號 (小澤號) 戰團機

大連市敷島町一七 新降洋行 小澤太兵衛

愛國第四百卅四號 (信州婦人號) 戰團機

長野市南縣町愛國婦人會支部 長野縣婦人會

代表 家田マキ

愛國第四百卅五號 (東京紙商第一號)

愛國第四百卅六號 (東京紙商第二號) 戰團機

東京市神田區駿河臺三ノ六 東京紙商組合

愛國第四百卅七號 (伊勢丹號) 戰團機

東京市四谷區新宿 株式會社伊勢丹

代表社長 小管圓治

愛國第四百卅八號

(軍事郵便號) 輕爆擊機

愛國第四百卅九號

大阪毎日、東京日日新聞社提唱

愛國第四百四十號 (軍事大遞號) 同

同

愛國第四百四十一號 (軍事三井號) 直協機

同

愛國第四百四十二號 (軍事三菱號) 同

同

愛國第四百四十三號 (瀧號) 輕爆擊機

名古屋市西區御幸本町四九 株式會社瀧兵衛商店

代表社長 瀧 兵右衛門

愛國第四百四十四號 (欠番)

愛國第四百四十五號 (大觀號) 重爆擊機

東京市下谷區茅町二ノ一九 横山秀磨 (大觀)

愛國第四百四十六號 (大昭和號) 戰團機

靜岡縣富士郡富士町東市場一三六

大昭和製紙株式會社 代表取締役會長 齋藤知一郎

愛國第四百四十七號 (大觀號) 戰團機

東京市下谷區茅町二ノ一九 横山秀磨

愛國第四百四十八號 (佐藤號) 戰團機

新京特別市城後路二〇九 長春洋行火工廠佐藤洋行

代表 佐藤精一

愛國第四百四十九號 (菅谷號) 戰團機

神戸市神戸區海岸通八番 菅谷商事株式會社

社長 菅谷 寛

愛國第四百五十號 (新田號) 重爆擊機

大阪市浪速區久保吉町一、二八一

合資會社新田帶革製造所 代表社員 新田宗一

愛國第四百五十一號 (尼崎第一號) 輕爆擊機

愛國第四百五十二號 (尼崎第二號) 戰團機

大阪市北區中ノ島七ノ一五 尼崎汽船株式會社

愛國第四百五十三號 (神戸二見號) 戰團機

神戸市神戸區山手通二ノ一〇六 合資會社二見商會

愛國第四百五十四號 (東京産組號) 戰闘機 代表社員 河口 明

東京市麴町區丸ノ内三ノ一 産業組合中央會東京支會

代表 岡田 週 造

愛國第四百五十五號 (延壽號) 輕爆擊機

東京市芝區高輪北町四八 清元延壽太夫

岡村 庄 吉

愛國第四百五十六號 (福井織物號) 戰闘機

福井市佐佳技上町八四 福井縣織物同業組合

代表 久 保 義 隆

愛國第四百五十八號 (銃器第三號) 戰闘機

小倉市陸軍造兵廠小倉支廠銃器製造所

代表 吉 田 智 準

愛國第四百五十九號 (日本研磨材號) 戰闘機

堺市石津町六六〇 株式會社日本高級炬材製造所

代表社員 齋 藤 八 郎

愛國第四百六十一號 (日本橋橫山町號) 戰闘機

東京市日本橋區橫山町四ノ一二 日本橋橫山町會

代表會長 宮 入 通 則

愛國第四百六十二號 (全滿王子會號) 戰闘機

新京日本橋通り四八 全滿王子會役員一同

代表會長 北 原 廣

愛國第四百六十三號 (全滿王子會號) 戰闘機

北京東城東總布胡同一九號 在北京鮮人一同

代表 宗 百 憲

愛國第四百六十五號 (朝燕號) 戰闘機

愛國第四百六十六號 (軍事郵便號) 重爆擊機

愛國第四百六十七號 (直協機)

大阪毎日、東京日日新聞社提唱

愛國第四百六十八號 (原田號) 患者輸送機

大阪市南區安堂寺橋通三丁目 原田商事株式會社

代表社員 原 田 龜 太 郎

愛國第四百六十九號 (大日本號) 襲擊機

金澤聯隊區司令部管内 大日本國防婦人會支部

全 國 民

愛國第四百七十號 (國婦石川號) 戰闘機

同多賀工場日立研究所従業員一同代表 馬 場 桑 夫

愛國第四百七十九號 (東京時寶號) 戰闘機

東京市下谷區東黑門町一六 東京時計商組合

東京市京橋區銀座七ノ四 東京寶飾品組合

代表 野 村 菊 次 郎

愛國第四百八十號 (英工舍號) 戰闘機

東京市下谷區西黑門町一一 株式會社鶴卷時計店

並英工舍職員従業員一同 代表專務 鶴 卷 榮 松

愛國第四百八十一號 (東京菓子號) 戰闘機

東京市下谷區竹町一、〇四三 東京菓子同業組合

代表組合長 武 田 富 藏

愛國第四百八十二號 (滿本號) 戰闘機

大連市裾野町五三 滿洲ペンイント株式會社

代表社員 小 栗 半 平

愛國第四百八十三號 (時計第一號) 戰闘機

東京市下谷區上野元黑門町一二 東京時計飾商五日會

代表 吉 田 庄 五 郎

愛國第四百八十四號 (東寶映畫第一號) 戰闘機

愛國第四百八十五號 (東寶映畫第二號) 戰闘機

代表 連 花 房 子

愛國第四百七十一號 (家庭愛國第一號) 戰闘機

愛國第四百七十二號 (家庭愛國第二號) 患者輸送機

東京市神田區駿河臺 株式會社主婦之友社

代表社員 石 川 武 美

愛國第四百七十三號 (大阪鐵工號) 戰闘機

愛國第四百七十四號 (大阪鐵工號) 戰闘機

大阪市東區豐崎西通一ノ一〇 大阪鐵工株式會社

代表社員 原 清 明

愛國第四百七十五號 (東京帽子號) 戰闘機

東京市神田區東神田一四 東京帽子同業組合飛行機獻

納有志 代表 山 口 善 八

愛國第四百七十六號 (東洋ベアリング第一號) 戰闘機

愛國第四百七十七號 (東洋ベアリング第二號) 戰闘機

大阪市北區堂島濱通四ノ一一 東洋ベアリング製造株式會社

代表 森 島 貞 吉

愛國第四百七十八號 (日立號) 戰闘機

茨城縣日立市大字助川一、四〇五 日立製作所日立工場従業員一同

代表 森 島 貞 吉

東京市京橋區銀座七ノ一 東寶映畫株式會社

代表 植村 泰三

愛國第四百八十六號(松竹號) 戰團機

東京市京橋區新富町二 松竹映畫株式會社

代表 白井松次郎

大谷竹次郎

愛國第四百八十七號(町村長號) 戰團機

東京市芝區西久保巴町三五 全國町村長會

全國町村長一同 代表會長 岡崎 勉

愛國第四百八十八號(山甚第三號) 偵察機

福井縣南條郡武生町 株式會社山甚商店

代表 山本甚三郎

愛國第四百八十九號(軍郵野村號)

愛國第四百九十號(軍郵大阪商船號) 直協機

愛國第四百九十一號(軍郵三和號)

大阪毎日、東京日日新聞社提唱

愛國第四百九十二號(大日本號) 重爆擊機

全 國 民

(以下命名式終了せず)

愛國 號(千代田號) 戰團機

東京市麴町區丸ノ内 千代田組

代表事務 齋藤 積善

愛國第 號(耕雲號) 戰團機

東京市澁谷區幡ヶ谷本町一ノ一〇 土屋 耕造

愛國第 號(千代田生命號) 戰團機

東京市京橋區京橋二ノ二 千代田生命保險相互會社

代表社長 今井利喜三郎

愛國第 號(相撲號) 戰團機

東京市兩國國技館 財團法人大日本相撲協會

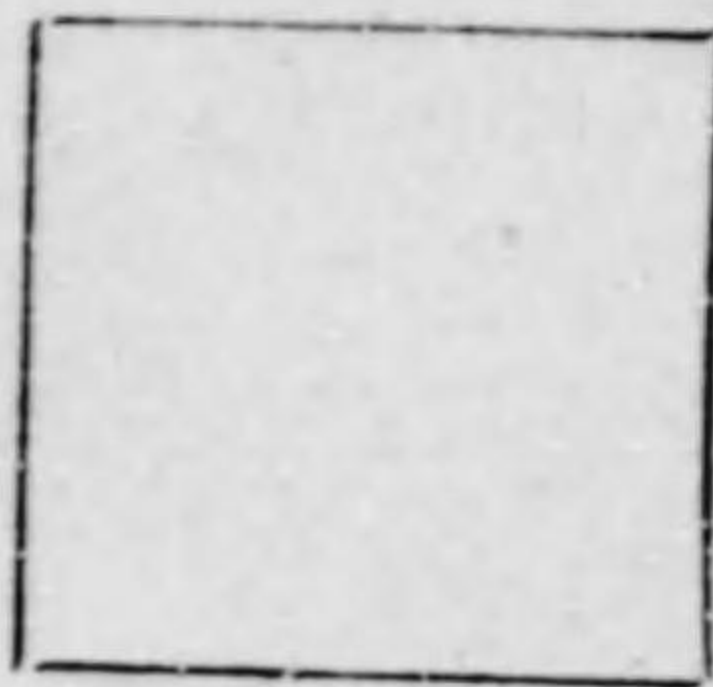
愛國第 號(高松號) 戰團機

福岡縣 遠賀産業報國會

(終)

昭和十六年二月一日印刷
昭和十六年二月十日發行

不許複製



著 者

青 木 泰 三

發 行 者

東京市神田區一ツ橋二丁目五番地
相 賀 ナ

印 刷 者

東京市小石川區久堅町一〇八番地
大 橋 松 雄

印 刷 所

東京市小石川區久堅町一〇八番地
共同印刷株式會社

發行所

東京市神田區一ツ橋二丁目五番地
振替口座東京七三三
電話九段(33)自一至四
四一八五番

集英社

關ふ陸の荒鷲

【定價三十錢】

(送料九錢)

912
151

151



396.8
A53



